



3 セットアップ

Express5800/ftサーバを使用できるまでのセットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。
セットアップの手順は、標準構成を購入した場合と「ビルド・トゥ・オーダー」でカスタム構成を購入した場合とでそれぞれ異なります。

標準構成を購入の場合

1. 別途購入されたオプションのメモリやCPUを取り付ける。(→9章参照)

重要

ハードディスクドライブやオプションのPCIボードなどは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

2. Express5800/ftサーバを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→3-5ページ)
3. ディスプレイ装置や外付けUSB-FDD、マウス、キーボードをExpress5800/ftサーバに接続する。(→3-17ページ)

重要

外付け型バックアップデバイスなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。

4. 添付の電源コードをExpress5800/ftサーバと電源コンセントに接続する。
5. Express5800/ftサーバの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
5-5ページに示す設定例を参考にしてください。

重要

使用する環境に合わせて正しく設定してください。また、日付や時刻が正しく設定されていることを確認してください。

「ビルド・トゥ・オーダー」でカスタム構成品を購入の場合

1. 「ビルド・トゥ・オーダー」で指定したオプション品が実装されていることを確認する。
2. Express5800/ftサーバを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→3-5ページ)
3. ディスプレイ装置や外付けUSB-FDD、マウス、キーボードをExpress5800/ftサーバに接続し、オプションPCIカードと外付けデバイスとを接続する。(→3-17ページ)

重要

必ず周辺機器とPCIカードとをケーブル接続してください。

4. 添付の電源コードをExpress5800/ftサーバと電源コンセントに接続する。
5. Express5800/ftサーバの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
5-5ページに示す設定例を参考にしてください。

重要

使用する環境に合わせて正しく設定してください。また、日付や時刻が正しく設定されていることを確認してください。

Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、Windows 2000オペレーティングシステムのセットアップをします。セットアップは購入後、初めてのセットアップの場合や購入時のハードディスクドライブの内容などによって参照するページが異なります。3-19ページ以降の説明を参照してセットアップしてください。再インストールの際にも参照してください。

ハードウェアのセットアップ

Express5800/ftサーバの電源をONにすることができる状態までのセットアップは次の順序で始めます。

箱の中身の確認

Express5800/ftサーバの梱包箱の中には、Express5800/ftサーバ本体以外にいろいろな付属品が入っています。添付の構成表を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、お買い求めの販売店に連絡してください。



付属品について

- 添付品はセットアップをするときやオプションの増設、Express5800/ftサーバが故障したときに必要となりますので大切に保管してください。
- 添付品の「EXPRESSBUILDER」の構成品については、パッケージの中にある構成表を参照してください。
- オペレーティングシステムに添付のソフトウェア登録カードは、所定事項をご記入の上、必ず投函してください。
- フロッピーディスクが添付されている場合は、ディスクのバックアップをとってください。また、添付のディスクをマスタディスクとして大切に保管し、バックアップディスクを使用してください。
- 添付のフロッピーディスクまたはCD-ROMは、使用方法を誤るとお客様のシステム環境を変更してしまうおそれがあります。使用についてご不明な点がある場合は、無理な操作をせずにお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

設置

Express5800/ftサーバの設置について説明します。

タワーモデルの設置

重要 Express5800/ftサーバは精密機器です。設置はできるだけ専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に依頼してください。

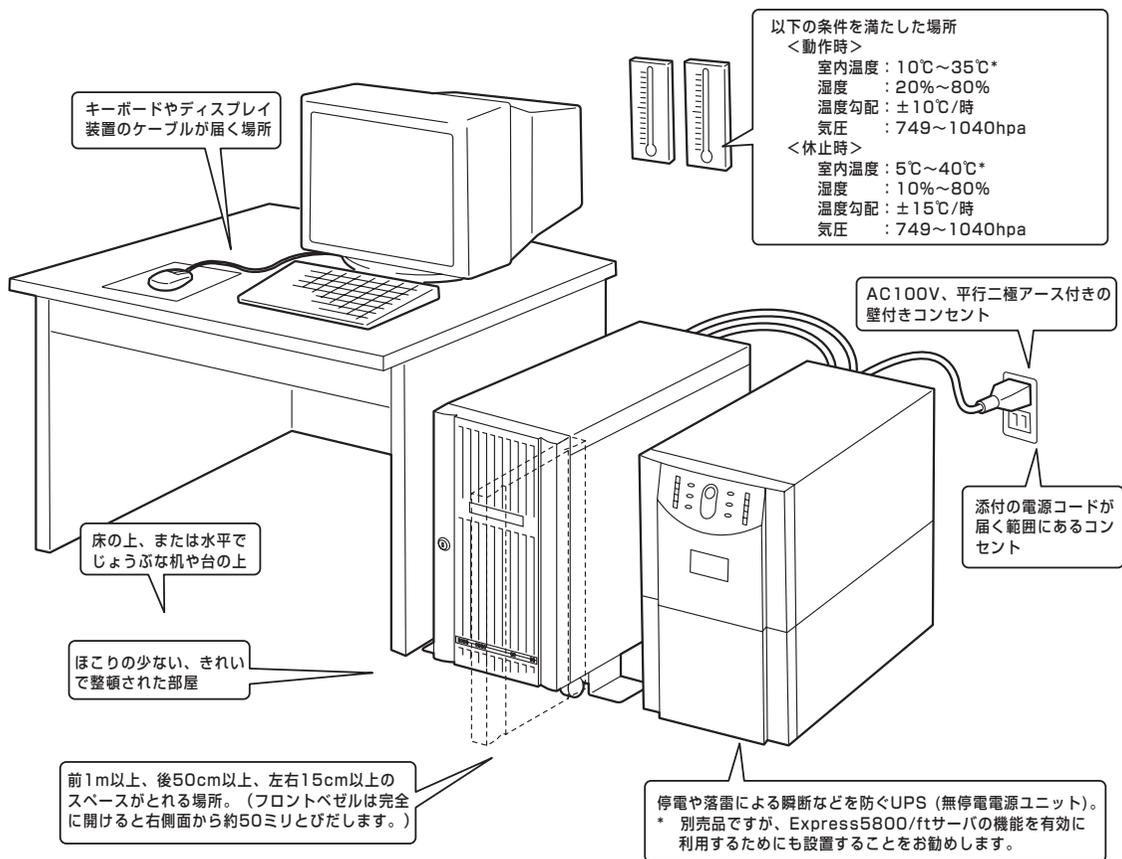
タワーモデルにふさわしい場所は次のとおりです。

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。

- 装置内のモジュールを抜かずに持ち上げて移動しない
- 指定以外の場所に設置しない



* 室内温度15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。

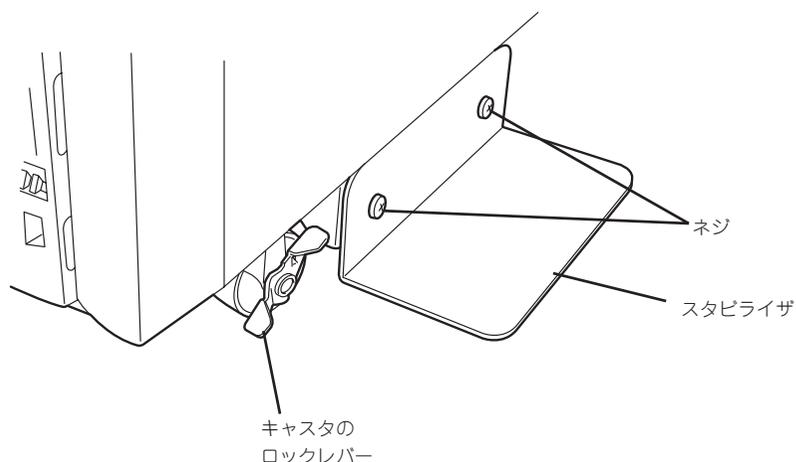
次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にExpress5800/ftサーバを設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガス(塩化ナトリウムや二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、オゾンなど)の発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインタフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

設置場所が決まったら、2人以上でExpress5800/ftサーバの底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。

重要 装置前面のフロントベゼルを持って、持ち上げないでください。フロントベゼルが外れて落下し、装置を破損してしまいます。

本体を設置後、キャスト4個の内、前側の2個をロックし、添付のスタビライザ(4個)の高さを調節しながらネジで本体に固定します。



本体を固定したら、フロントベゼルを開けてCPUモジュールとPCIモジュールを取り付けます。取り付け手順の詳細については「ラックマウントモデルの設置」の「取り付け手順7以降を参照してください。タワーモデルとラックマウントモデルは向きが異なるだけで取り付け手順は同じです。



以降の手順でCPUモジュールとPCIモジュールの取り付けをします。取り付けの前に以下の点に注意してください。

- 本体を確実に固定したことを確認する。
- モジュールを本体や周辺の器物にぶつけない。
- モジュールをしっかり持ちながらゆっくり、ていねいに取り付ける。
- 取り付けづらいときは無理をせず、いったん取り外してからやり直す。
- 右側2スロットにCPUモジュール、左側2スロットにPCIモジュールを取り付ける。
- 取り付けは左のスロットから始める。

ラックマウントモデルの設置



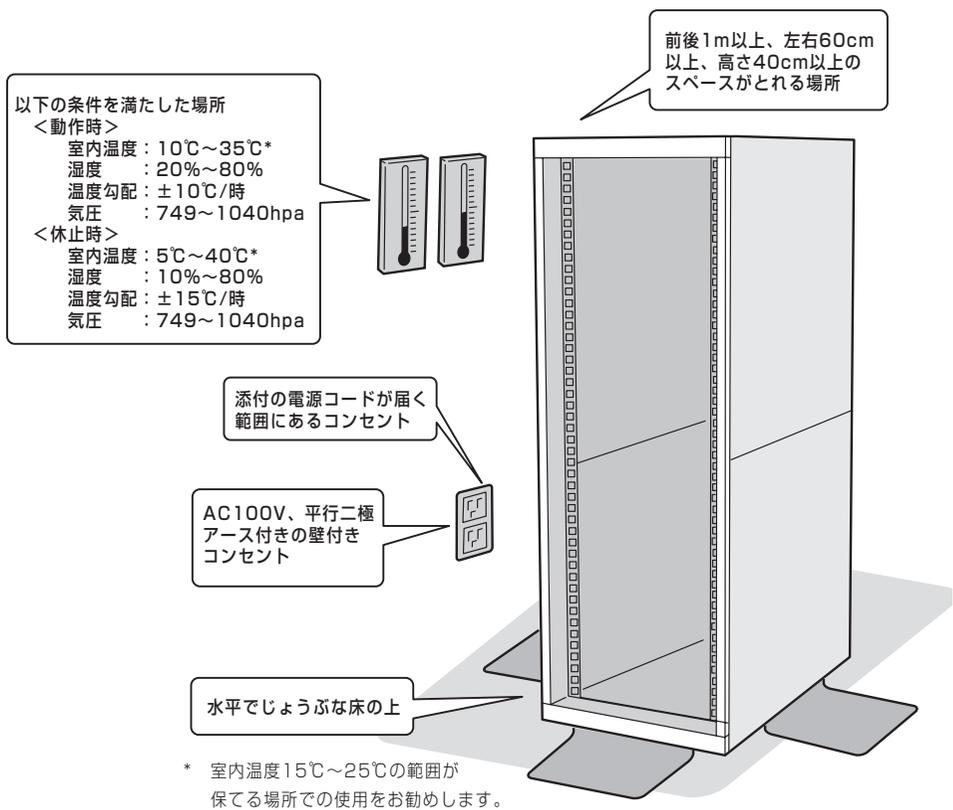
Express5800/ftサーバは精密機器です。設置はできるだけ専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に依頼してください。

Express5800/ftサーバはEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。



 警告	
 	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指定以外の場所で使用しない ● アース線をガス管につながらない

 注意	
  	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人で搬送・設置をしない ● 荷重が集中してしまうような設置はしない ● 一人で取り付け・取り外しをしない ● ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない ● 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない ● 定格電源を超える配線をしない

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックにExpress5800/ftサーバを搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガス(塩化ナトリウムや二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、オゾンなど)の発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

ラックへの取り付け ～N8140-74/90/91/92/93/94～

Express5800/ftサーバをラックに取り付けます。

ここでは、弊社製のラック(N8140-74/90/91/92/93/94)、または他社製ラックへの取り付け手順について説明します。

 警告	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 規格外のラックで使用しない● 指定以外の場所で使用しない

 注意	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 一人で取り付け・取り外しをしない● カバーを外したまま取り付けない● 指を挟まない



ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、Express5800/ftサーバの動作保証温度(10℃～35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

- **必要な工具**

ラックへ取り付けするために必要な工具はプラスドライバです。

● 取り付け手順

次の手順で装置をラックへ取り付けます。

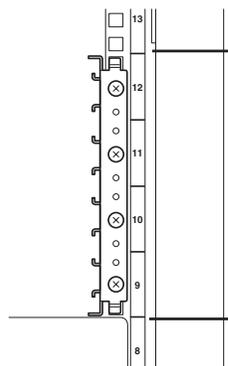
1. 装置を取り付ける位置(高さ)を決める。

ラック全体の重心を低く保つために、なるべくラックの下側に搭載してください。

ラックに取り付けるためには、4U分の高さが必要です。

🔑 重要

- 本装置をラックに取り付ける場合は、4U分のスペースの他にUSB対応のフロッピーディスクドライブを設置するために1U分のスペースが必要になります。
- レールのスライド部分が固定されていないため、レールの落下にご注意ください。

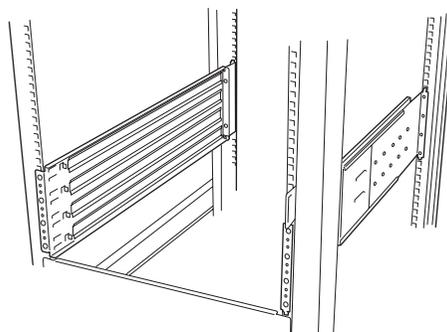


4U (ラックによっては1U単位に刻印、5U単位に丸2つの刻印がある)

2. ラック前面の縦フレームにラックの外側からレールの折り曲がり部分を突き当て、ラック背面側の縦フレームにレールのもう一方の端をラック内側から突き当てる。

✔ チェック

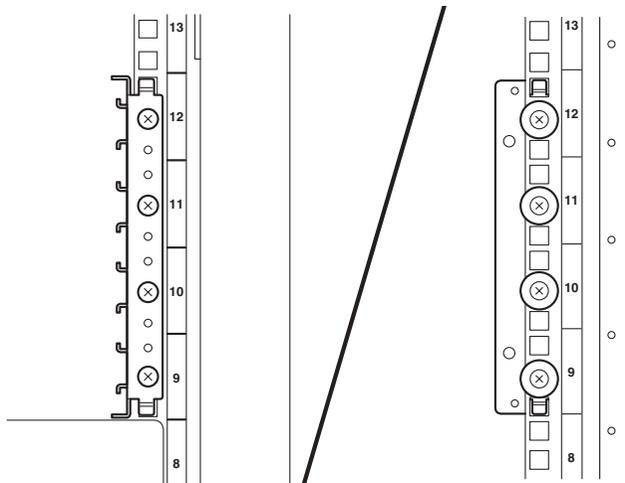
- レールの取り付け方向を確認してください。
- レールの取り付け位置(高さ)を確認してください。



3. レールを支えながら、ネジ(前後各4本)でラックに固定する。

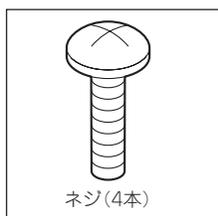


- レールが水平に取り付けられていることを確認してください。
- ネジ止めの位置は下図を参照してください。
- 背面側はワッシャを使用します。

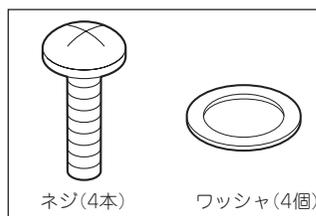


ラック前面側

ラック背面側



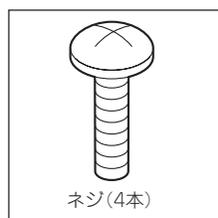
ネジ(4本)



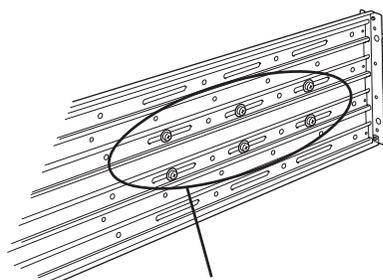
ネジ(4本)

ワッシャ(4個)

4. ネジ(左右各4本)でレール本体とスライド部を固定する。



ネジ(4本)



固定ネジ取り付け箇所

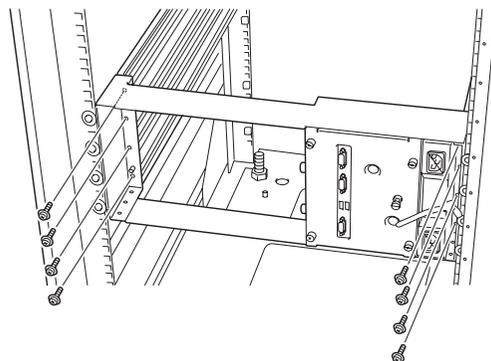
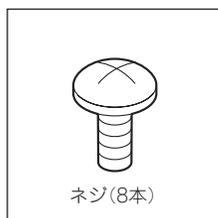
取り付けのラック長により、固定するネジ穴の位置が変わることがあります。

5. もう一方のレールを手順1~4と同じ手順で取り付ける。



すでに取り付けているレールと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

6. ラック背面からバックプレーンを取り付け、添付のネジで固定する。



重要

以降の手順でCPUモジュールとPCIモジュールの取り付けをします。取り付けの前に以下の点に注意してください。

- シャーシを確実に取り付け、固定したことを確認する。
- モジュールをラックや周辺の器物にぶつけない。
- モジュールをしっかり持ちながらゆっくり、ていねいに付ける。
- 取り付けづらいときは無理をせず、いったん取り外してからやり直す。
- 下側2スロットにCPUモジュール、上側2スロットにPCIモジュールを取り付ける。
- 取り付けは下のスロットから始める。

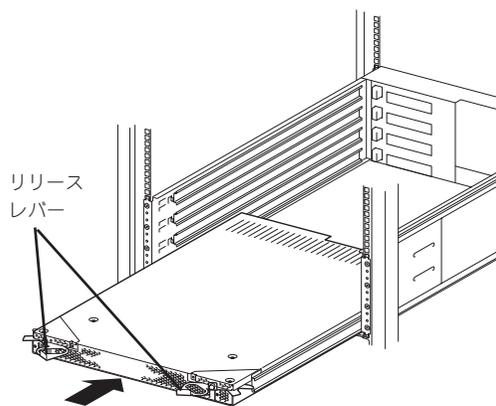
ヒント

ここではCPUモジュールを例に取り付け手順を示します。PCIモジュールも同様の手順で取り付けることができます(手順が異なる場合は補足として説明しています)。

7. CPUモジュールのバックパネル接続コネクタがラック背面に向くように持ち、本体左右にあるガイドとシャーシのガイドを合わせてゆっくりとていねいに差し込む。

ヒント

機構部分がなじんでいないため、強い摩擦を感じる場合がありますが、取り付けには問題ありません。

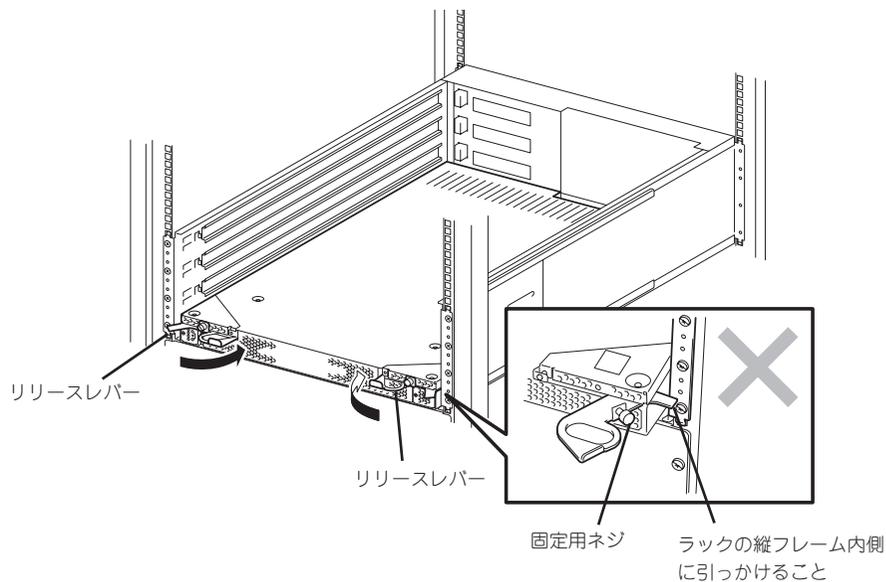


- リリースレバーを持って、突き当たるまで差し込む。
- リリースレバーを閉じる。

重要

リリースレバーがラックの縦フレームの内側ないと正しく取り付けられません。

- リリースレバーをネジで固定する。



- 下のスロットから順番に手順7~10を繰り返し、すべてのモジュールを取り付ける。

以上でラックへの取り付けは完了です。

フロントベゼルはセットアップをすべて完了してから取り付けます。フロントベゼルの取り付け方は、2章を参照してください。

ラックからの取り外し ～N8140-74/90/91/92/93/94～

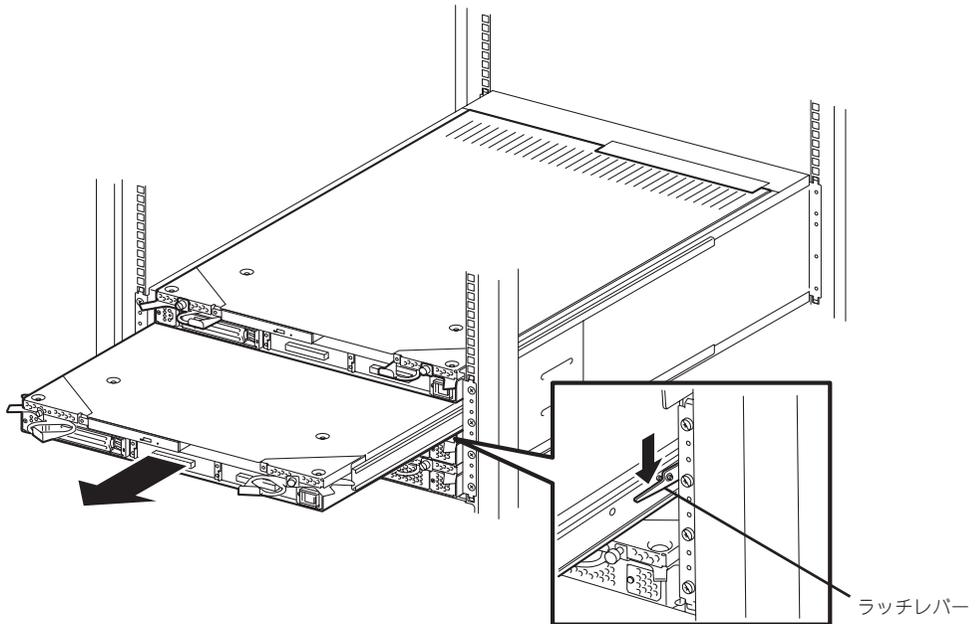
ラックからの取り外しは取り付け時の逆の手順で行います。フロントベゼルを取り外した後、本体両側にあるリリースレバーのネジをゆるめ、レバーを開いてから、ゆっくりと静かに取り出してください。



モジュールを実装したまま、ラックから本体を取り外さないでください。



CPUモジュール、PCIモジュールともに途中でラッチされます。本体側面にあるラッチレバーでロックを解除してから引き出してください。



取り外し後は、Express5800/ftサーバを梱包していた部材でExpress5800/ftサーバを包装してください。

接 続

Express5800/ftサーバと周辺装置を接続します。

Express5800/ftサーバには、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図はExpress5800/ftサーバが標準の状態で見られる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードをExpress5800/ftサーバに接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、1-7ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない



重要

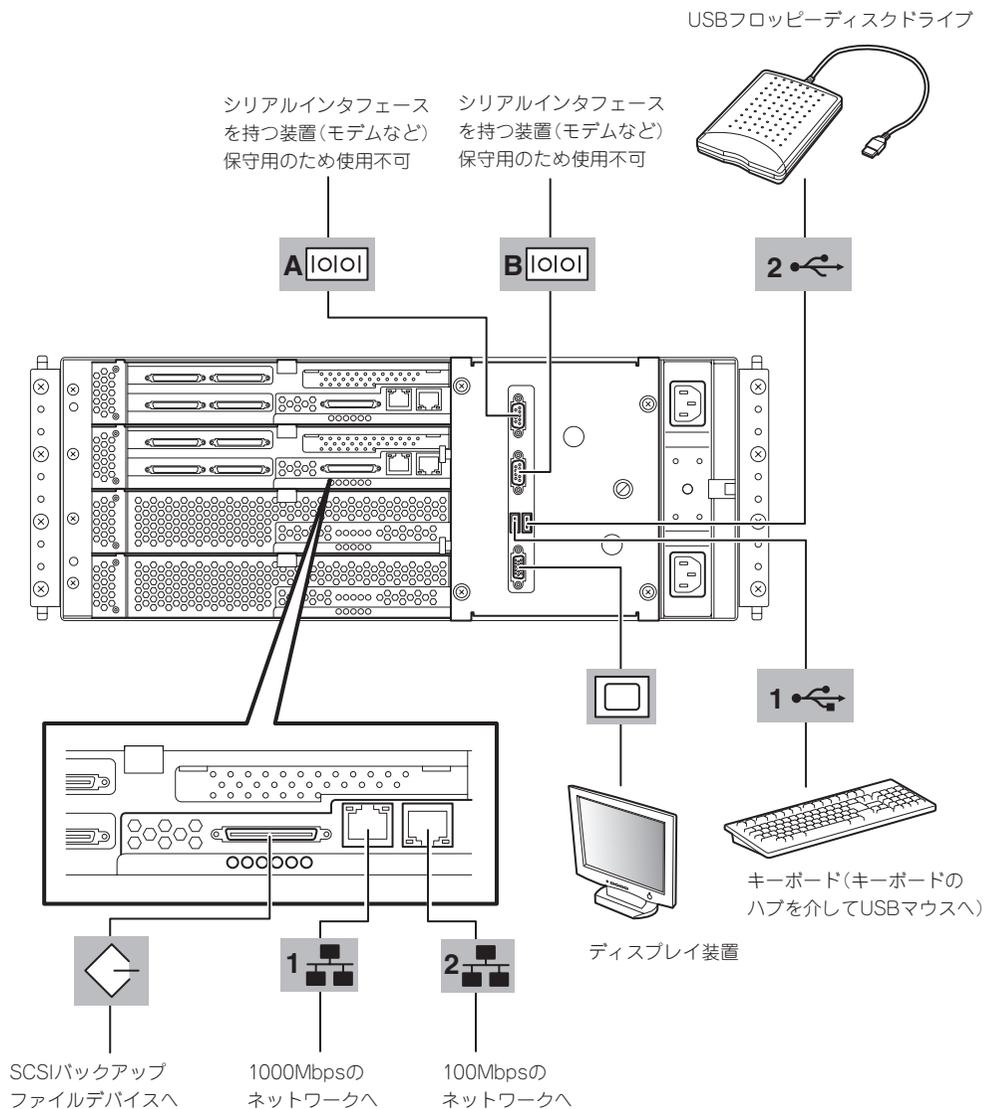
- USB機器を除く製品は、接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置がExpress5800/ftサーバで使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中にはExpress5800/ftサーバで使用できないものがあります。
- SCSI機器の接続は、SCSI機器内部の接続ケーブルを含め、ケーブルの全長が6m以内になるようにしてください。
- 接続するモデムは、別途、保守サービス会社にお問い合わせください。
- シリアルポートコネクタは保守用のため使用できません。
- 本装置で対応しているUSB機器は、弊社指定のUSBフロッピーディスクドライブ、キーボード(マウス含む)、およびSSU(サーバスイッチユニット)です。他のUSB機器を接続すると誤動作や故障の原因となります。

下図はラックマウントモデルの場合を示します。タワーモデルでも装置の向きが異なるだけでコネクタの位置は同じです。



USBフロッピーディスクドライブについて

ラックマウントモデルの場合は、本体の上に置くために1U分の隙間が必要です。タワーモデルの場合は本体の上に置いてください。



オプション品の接続について

- 標準構成品を購入の場合、別途購入されたオプションPCIカード、ハードディスクドライブは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付け、接続を行ってください。
- 「ビルド・トゥー・オーダー」でカスタム構成品を購入の場合、N8803-030/031が実装されている場合は、FCアレイ装置と必ずケーブル接続を行ってから次の手順に進んでください。

PCIモジュールに接続したケーブルは、ケーブルタイで固定してください。

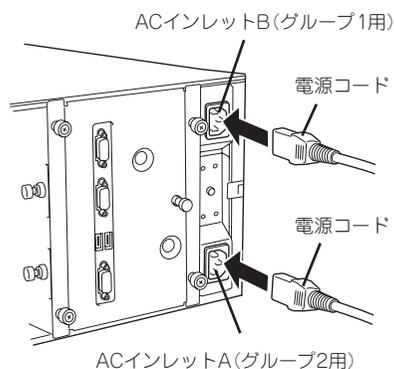
周辺機器との接続を完了したら、添付の電源コード(2本)をExpress5800/ftサーバに接続します。接続した電源コードはケーブルタイで固定してください。

電源コードのもう一方のプラグは、AC100V、平行二極アース付きの壁付きコンセント、または無停電電源装置(UPS)に接続します。フォールトトレラントサーバとしての機能を利用するためにもExpress5800/ftサーバの電源はUPSから供給されるよう接続することをお勧めします。

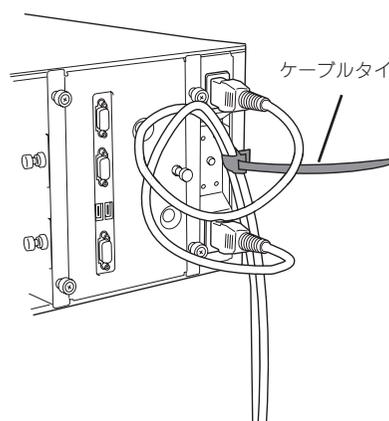
重要

- フォールトトレラント機能を利用するために電源コードは必ず2本とも接続してください。
- PCIモジュール両系搭載時、電源コードを先に接続した方がプライマリPCIモジュールとなります。ACインレットAはグループ2用、ACインレットBはグループ1用です。
- プライマリとなっているPCIモジュールの確認はPOWERスイッチのLEDが点灯している方です。

<ラックマウントモデルの場合>



<例>



Express5800/ftサーバの電源コードをUPSに接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコンセントがあります(「OUTPUT 1」、「OUTPUT 2」と呼ぶ場合もあります)。

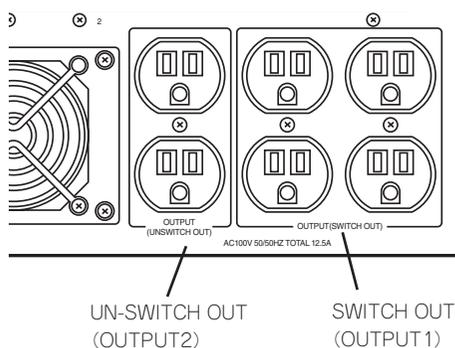
ESMPRO/AutomaticRunningControllerから電源の制御をしたい場合はSWITCH OUTに電源コードを接続します。

常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに電源コードを接続します(24時間稼働させるモデムなどはこのコンセントに接続します)。

本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動(リンク)させるためにExpress5800/ftサーバのBIOSの設定を変更してください。

BIOSの「System Hardware」-「AC-LINK」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは5-20ページを参照してください。

<例>



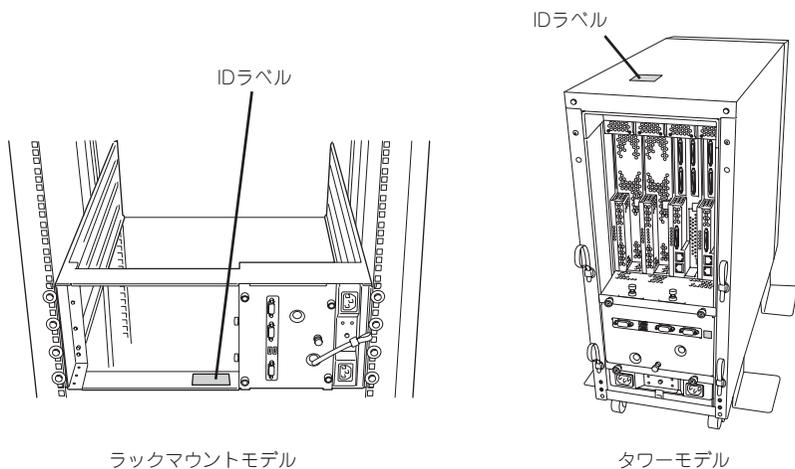
Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows 2000やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

Windows 2000のセットアップは、購入されたモデルや購入の際にオーダーした内容によって次の2つの方法があります。



- ここで示す方法以外のセットアップでは、Express5800/ftサーバを正しくセットアップすることができません。
- Windows 2000インストールモデルにはExpress5800/ftサーバ本体にWindows 2000のプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。Windows 2000のセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーの番号をメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。



- セットアップ作業中は、CPUモジュールステータスランプ1、およびPCIモジュールステータスランプ1が赤色に点灯しますが、モジュールの故障ではありません。セットアップ作業が完了し、各モジュールが正常に二重化された時点で、CPUモジュールステータスランプ1とPCIモジュールステータスランプ1は消灯し、CPUモジュールステータスランプ2とPCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯します。各モジュールのランプの表示状態の詳細については、「ランプ」(2-16ページ)を参照してください。

セットアップを始める前に

セットアップを始める前に必ずお読みください。
本章では2通りのセットアップについて記載しています。

- 初めて電源をONにするときのセットアップ手順
- OSを再インストールするときのセットアップ手順

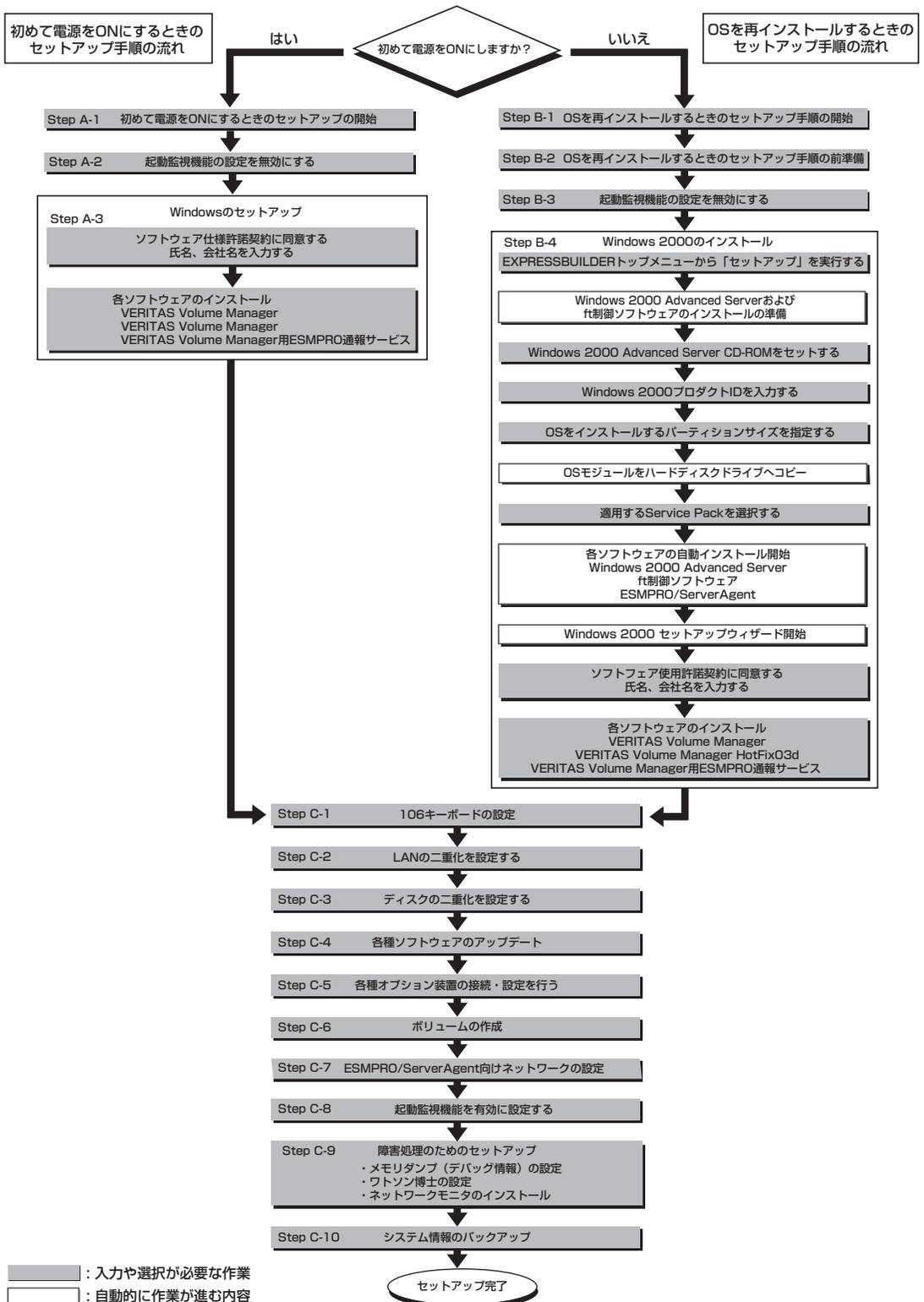
初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合の手順です。
Express5800/ftサーバのハードディスクドライブには、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定、ハードディスクドライブの二重化(システムパーティションのみ)設定からOS、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。購入後、初めてセットアップされる場合はこちらのセットアップを行います。「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」(3-22ページ)にお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合の手順です。
Express5800/ftサーバではEXPRESSBUILDERを使ってOSの再インストールを行います。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動したときに表示されるメニューの「セットアップ」の項目を選択することで実行されるExpress5800/ftサーバシリーズ独自のセットアッププログラムを「ftサーバセットアップ」と呼びます。
「ftサーバセットアップ」では、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows)、各種ユーティリティのインストールまでを自動でセットアップすることができます。
ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、こちらのセットアップを行います。「OSを再インストールするときのセットアップ手順」(3-35ページ)にお進みください。

セットアップの流れ



初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合は以下の手順を行ってください。

なお、PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページにおいて、最新のft制御ソフトウェアを確認し、本体に添付されているEXPRESSBUILDER CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンが古い場合には、以下の手順によるセットアップ後、Webページに掲載されているアップデート手順に従ってシステムのアップデートを実施してください。



本体に添付されているEXPRESSBUILDER CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンを確認するには「ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法」(3-86ページ)を参照してください。

1. Step A-1～Step A-3を行う。
2. Step C-1～Step C-10を行う。



上記で示す方法以外のセットアップでは、Express5800/ftサーバを正しくセットアップすることができません。

Step A-1 初めて電源をONにするときのセットアップ手順の開始

購入後、初めて電源をONにする場合のセットアップ手順の開始です。セットアップを開始する前に以下のものを準備してください。

- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM

本CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするためのものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれているソフトウェアが最新の場合には添付されません)。

- ユーザーズガイド(本書)

「Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする」(次ページ)に進み、セットアップを行ってください。

Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする ～BIOS設定の変更～

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。

本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています(本機能は出荷時の設定で有効となっています)。

本装置の購入時にインストール済みのオペレーティングシステムをセットアップするときは監視機能の設定を無効にしてください。インストール済みのオペレーティングシステムのセットアップを失敗します。

ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。ここで説明する図はラックマウントモデルを示します。タワーモデルとの違いは向きだけです。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、購入時にインストール済みのオペレーティングシステムは使用できなくなります(再インストールを行わなければ使用できません)。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、5章を参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。

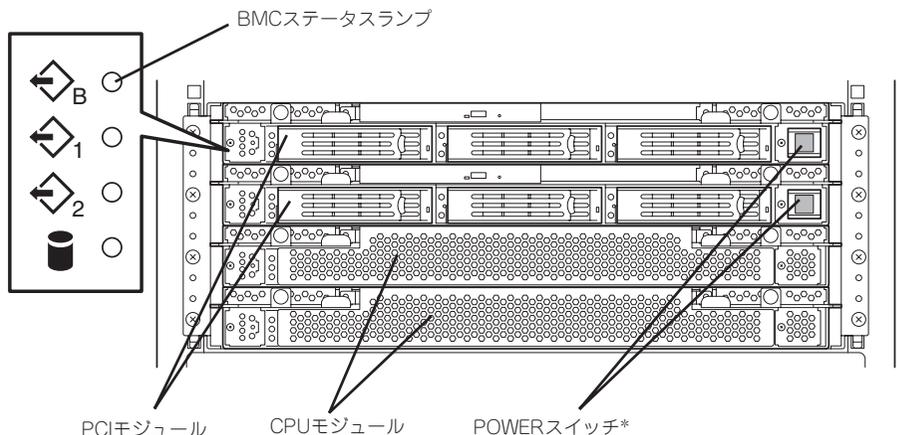


無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。



Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通电後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. ラックマウントモデルの場合は、フロントベゼルを取り外す。
タワーモデルの場合はフロントベゼルを開きます。
3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(⚡B)が消灯していることを確認し、Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。



* POWERスイッチはランプが点灯している方のみ使用できます。

🔑 重要

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- 電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(🔦^B)の消灯を確認後、POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行してExpress5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは2章をご覧ください。POSTを完了するとWindows 2000が起動します。

✓ チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。8章を参照してください。

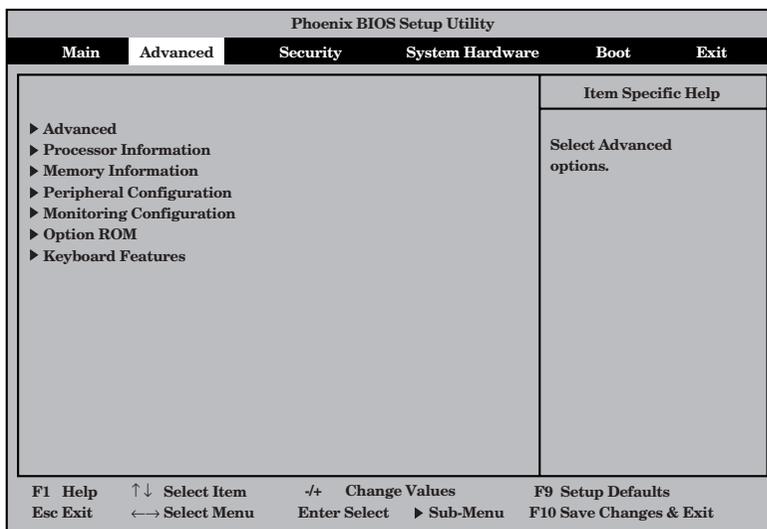
4. ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

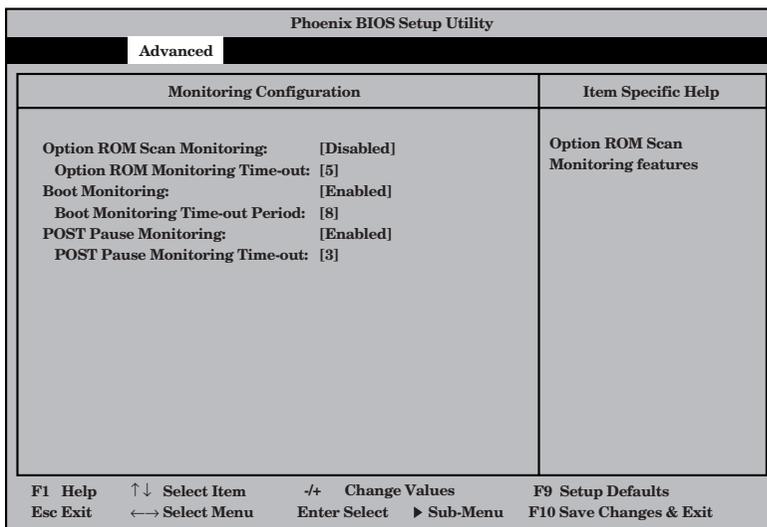
<例>

Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	System Hardware	Boot	Exit
Processor Type: Intel(R) Xeon(TM) processor				Item Specific Help	
Processor Speed: 2.40 GHz				<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.	
Cache RAM: 512KB					
System Memory: 584KB					
Extended Memory: 511MB					
BIOS Version: Rel.x.x.x.xxx					
System Time: [18:54:08]					
System Date: [11/12/2002]					
Language: [English(US)]					
Primary Master: CD-ROM					
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
Ese Exit	←→ Select Menu	Enter Select	▶ Sub-Menu	F10 Save Changes & Exit	

5. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Advanced」を選択する。
Advancedメニューが表示されます。

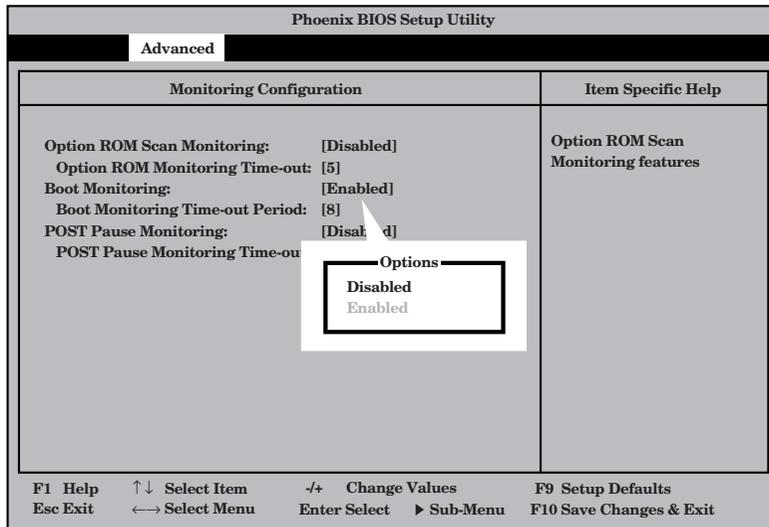


6. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。
Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

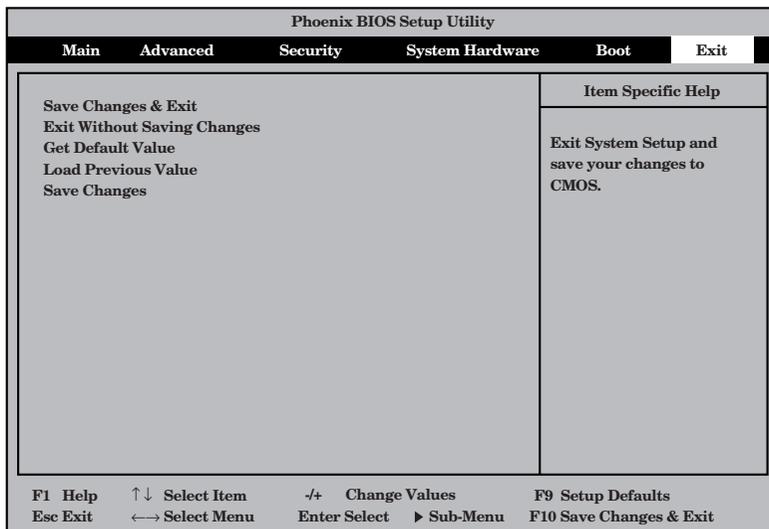


7. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。
パラメータが表示されます。

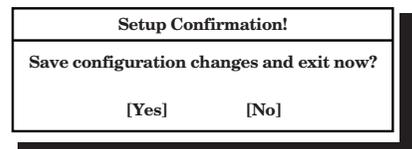
8. パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。
 Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。



9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。
 Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Save Changes & Exit」を選択し、<Enter>キーを押す。
 確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。
 設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。
 以上で切り替えは完了です。



再起動後にWindowsのセットアップウィザード画面が表示されます。次ページの「Step A-3 Windowsのセットアップ」に進んでセットアップを続けます。

Step A-3 Windowsのセットアップ

- 再起動後、セットアップウィザードの開始画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。以降、ユーザー名などの設定画面が次々と表示されます。ウィザードに従って操作を行い、必要な設定をしてください。ウィザードの操作完了後、自動的に再起動されます。

重要

- [ライセンス契約]画面では内容をよく読んでください。同意する場合は、[同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。同意しない場合は、[同意しません]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。ただし、同意しないとセットアップは終了し、Windowsはインストールされません。
- セットアップ作業中は、CPUモジュールステータスランプ1、およびPCIモジュールステータスランプ1が赤色に点灯しますが、モジュールの故障ではありません。

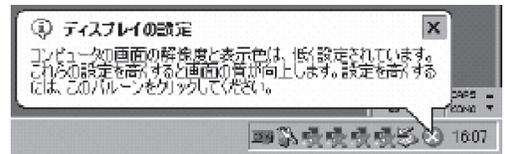
セットアップ作業が完了し、各モジュールが正常に二重化された時点で、CPUモジュールステータスランプ1とPCIモジュールステータスランプ1は消灯し、CPUモジュールステータスランプ2とPCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯します。各モジュールランプの表示状態の詳細については、「ランプ」(2-16ページ)を参照してください。

- 再起動後、Administratorのユーザー名でログオンする。

重要

画面右下に[ディスプレイの設定]が表示されていることがあります。この場合、次の[画面の色]設定を「中(16ビット)」以上に変更してください。

[画面のプロパティ] - [設定タブ] -
[画面の色]



- 次のメッセージが表示され、ソフトウェアのインストールが開始される。

何かキーを押して処理を実行してください。

```
*****
次のソフトウェアのインストールを開始します。

- VERITAS Volume Manager 3.1
- VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix 03d
- VERITAS Volume Manager 用 ESMPRO 通報サービス
```

画面の指示にしたがって操作してください。

```
*****
```

続行するには何かキーを押してください。

4. 次のいずれかのメッセージが表示される。

画面の指示に従ってCD-ROMを挿入し、何かキーを押下してください。

EXPRESSBUILDER の CD を CD-ROM ドライブに挿入してください。
続行するには何かキーを押してください...

または

ft 制御ソフトウェア UPDATE CD を CD-ROM ドライブに挿入してください。
続行するには何かキーを押してください...

重要

装置にft制御ソフトウェアUPDATE CDが添付されていない場合は、EXPRESSBUILDER CD-ROMの挿入メッセージが表示されます。装置にft制御ソフトウェアUPDATE CDが添付されている場合は、ft制御ソフトウェアUPDATE CDの挿入メッセージが表示されます。

5. VERITAS Volume Manager 3.1をインストールするメッセージが表示される。

画面の指示に従って、何かキーを押下してください。VERITAS Volume Manager 3.1のインストールが開始されます。

VERITAS Volume Manager 3.1 のインストールを開始します

続行するには何かキーを押してください...



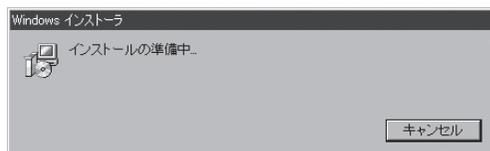
VERITAS Volume Manager 3.1 のインストールを開始します

続行するには何かキーを押してください...

VERITAS Volume Manager 3.1 インストール中...
インストールウィザードが起動されるまでしばらくお待ちください...

6. VERITAS Volume Manager 3.1インストールウィザードが起動される。

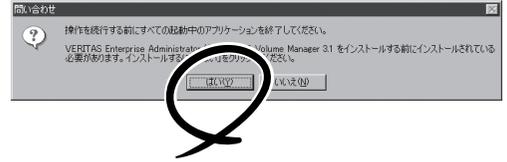
手順7の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。



重要

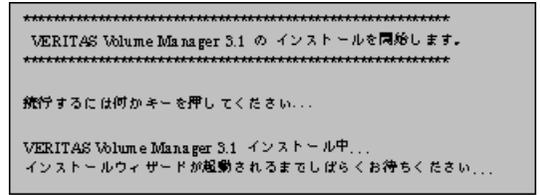
絶対に[キャンセル]をクリックしないでください。[キャンセル]がクリックされた場合、セットアップは正常に終了しません。

7. 右の画面が表示される。
[はい]をクリックしてください。



重要

このときVERITAS Volume Manager 3.1インストールウィザード画面の背面で動作している次の画面は絶対に終了させないでください。下の画面が終了された場合、セットアップは正常に終了しません。初めからftサーバセットアップを実施する必要があります。



8. 右の画面が表示される。
操作を行わず、しばらくお待ちください。
9. 右の画面が表示される。
[次へ]をクリックする。



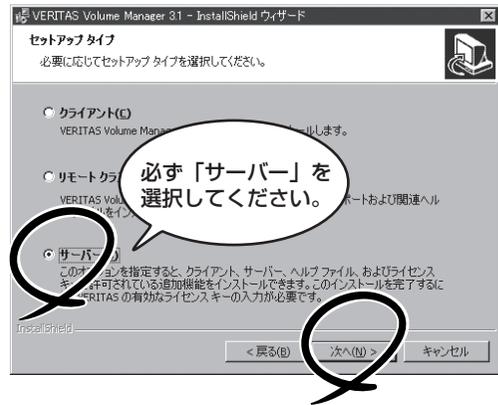
10. 右の画面が表示されるので、[OK]をクリックする。



11. 右の画面が表示されるので、必ず「サーバー」を選択し、[次へ]をクリックする。

重要

必ず「サーバー」を選択してください。誤って「サーバー」以外のセットアップタイプを選択してインストールを行った場合は、手順23(3-34ページ)のログオン後に以下の操作で[サーバ]のインストールを行ってください。



1. [コントロールパネル]－[アプリケーションの追加と削除]より、以下の順序で6つのプログラムをアンインストールする。

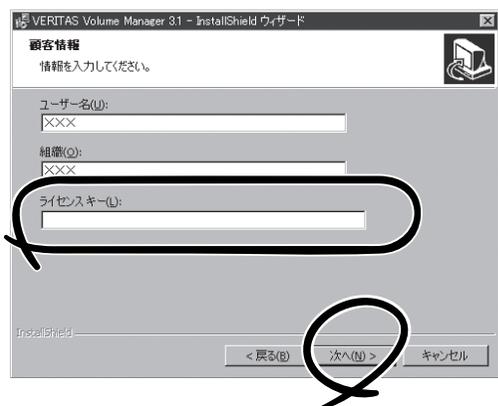
- (1) VERITAS Volume Manager 3.1 –HotFix03
- (2) VERITAS Enterprise Administrator Service Language Pack
- (3) VERITAS Enterprise Administrator Language Pack
- (4) VERITAS Volume Manager 3.1
- (5) VERITAS Enterprise Administrator Service
- (6) VERITAS Enterprise Administrator



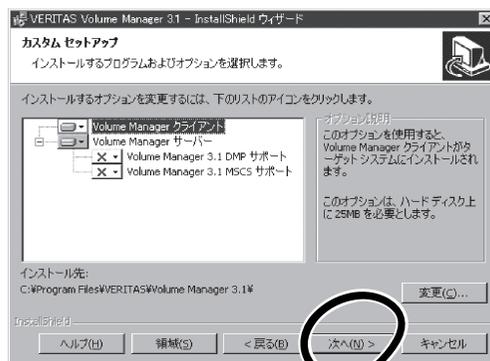
2. 再起動させる。
3. 6-101ページを参照して以下をインストールする。
 - VERITAS Volume Manager 3.1
 - VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03
 - VERITAS Volume Manager用ESMPRO通報サービス
4. 再起動させる。

12. 右の画面が表示されるので、[ライセンスキー]を入力し、[次へ]をクリックする。

VERITAS Volume Managerのライセンスキーは、Express5800/ftサーバ本体にライセンスキーが記載されたIDラベルが貼り付けられています。ライセンスキーには、“0(数値)”、“1(数値)”、“5(数値)”、および“Q(アルファベット)”は利用しておりません。



13. 右の画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。



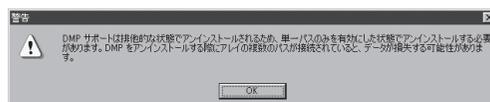
重要

- 「Volume Manager 3.1 DMPサポート」、 「Volume Manager 3.1 MSCSサポート」は既定値のまま無効でインストールしてください。

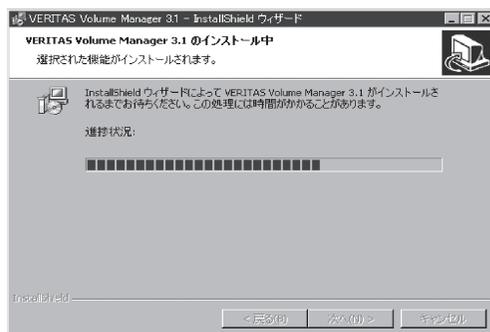
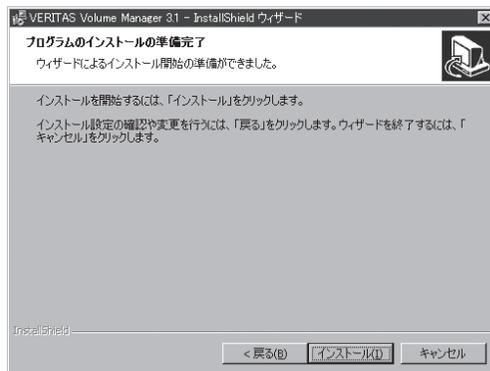


- 標準でインストールされるVERITAS Volume Managerの動的配置およびホットスペア機能は、本装置では使用しないでください。

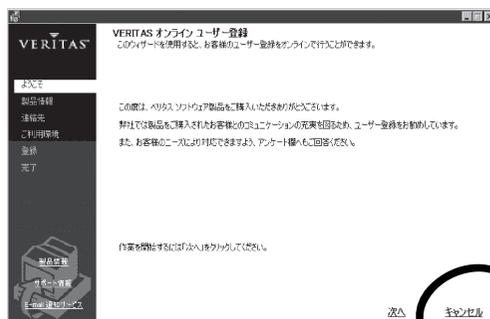
14. 右の画面が表示されるので、[OK]をクリックする。



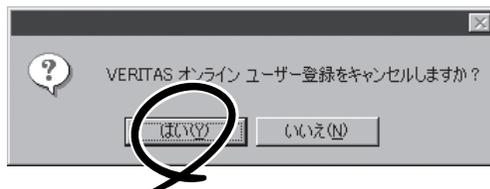
15. 右の画面が表示されるので、[インストール]をクリックする。



16. 右の画面が表示されるので、画面右下の [キャンセル]、または画面右上の「×」をクリックしてキャンセルする。



17. 手順16で[キャンセル]、または「×」をクリックすると右の画面が表示されるので、[はい]をクリックしてキャンセルする。



18. 右の画面が表示されるので、[完了]をクリックする。



VERITAS Volume Manager 3.1のインストールが完了し、続いてVERITAS Volume Manager HotFixのインストールが自動で開始されます。VERITAS Volume Manager HotFixのインストールには数分間かかります。しばらくお待ちください。

```
VERITAS Volume Manager 3.1 のインストールを完了しました。
*****
VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを開始します
*****
VERITAS Volume Manager HotFix03d インストール中...
数分間お待ちください...
```



```
VERITAS Volume Manager 3.1 のインストールを完了しました。
*****
VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを開始します
*****
VERITAS Volume Manager HotFix03d インストール中...
数分間お待ちください...
VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを完了しました。
```

VERITAS Volume Manager HotFixインストール後、続いてVERITAS Volume Manager用ESMPRO通報サービスのインストールが自動で開始されます。

```
*** Install [ESMPRO Alert Service for VERITAS Volume Manager] ***
command successfully
```

19. 次のメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、CD-ROMドライブからCDを抜いて何かキーを押下してください。自動的に再起動されます。

```
VERITAS Volume Manager HotFix 03d のインストールを完了しました。

*** Setting [Server wizard on] ***
*** Installing [ESMPRO Alert Service for VERITAS Volume Manager] ***
command successfully
*** Setting [ft version information] ***

*****
Express5800/ft サーバ クリアインストールが完了しました。

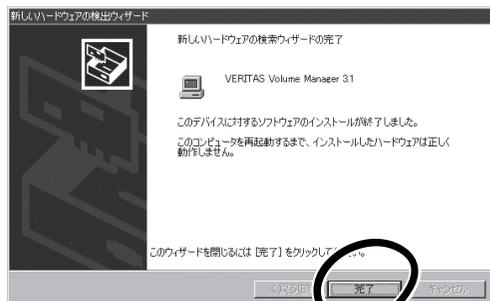
BIOS の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に
変更してからシステムの運用を行ってください。
詳しくはユーザーズガイドを参照下さい。
*****

変更を有効にするためにシステムを再起動します。
CD-ROM ドライブから CD を抜いてください。

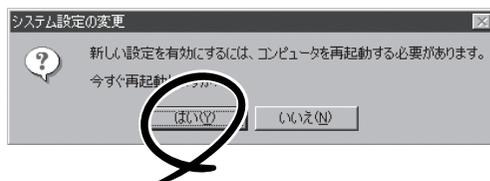
続行するには何かキーを押してください...
```

20. 再起動後、Administratorのユーザー名でログオンする。

21. ログオン後、右の画面が表示されるので、[完了]をクリックする。



22. 右の画面が表示されるので、[はい]をクリックして再起動する。



23. 再起動後、Administratorのユーザー名でログオンする。

引き続き、「Step C-1 106キーボードの設定」(3-65ページ)を行ってください。

Step C-1「106キーボードの設定」(3-65ページ)へお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合は以下の手順を行ってください。

 **重要** OSを再インストールするときのセットアップ手順ではシステムディスクをフォーマットします。

PP・サポートサービスご購入のお客様は、再インストールを行う前にPP・サポートサービスのWebページにおいて最新のft制御ソフトウェアを確認し、最新バージョンのソフトウェアをインストールしてください。

 **ヒント** 本体に添付されているEXPRESSBUILDER CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンを確認するには「ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法」(3-86ページ)を参照してください。

1. Step B-1～Step B-4を行う。
2. Step C-1～Step C-10を行う。

Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始

オペレーティングシステム再インストールの開始です。

 **重要** 自動インストール処理の中で要求されるWindows 2000 Service Packを必ず適用してください。その他のWindows 2000 Service Packは適用できません。セットアップ完了後に再度、Windows 2000 Service Packを適用する場合には、「Windows Service Packの適用に関する注意」を参照して実施してください。

 **ヒント** PP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のWindows 2000 Service Packへの対応状況をPP・サポートサービスのWebページから確認することができます。

Windows 2000のインストールには、以下のものがが必要です。

- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM
本CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれるソフトウェアが最新の場合には添付されません)。
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server 日本語版 CD-ROM
- ユーザーズガイド(本書)

 **重要** PP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のft制御ソフトウェアのリリース状況を確認し、最新バージョンのft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用してください。

セットアップ手順を進める前に、OSをインストールするパーティションのサイズを決定してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
インストールに必要なサイズ = 2048MB
ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。



ヒント

搭載メモリサイズは、CPUモジュール1つに実装されている合計サイズです。

例えば、搭載サイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$2048\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 3340\text{MB}$$

となります。



ヒント

ftサーバセットアップで指定可能な最小パーティションサイズは3072MBです。自動インストールの動作のため、3072MB以上のパーティションサイズが必要なため、3071MB以下を指定することはできません。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

「Volume Manager for Windows」を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度、ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成またはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[Volume Manager for Windows]から行えます。

Step B-2 OSを再インストールするときの手順の前準備

ftサーバセットアップ開始前に、以下の2つの前準備を行ってください。前準備を行わない場合、セットアップが正しく行われません。

- ハードディスクドライブの初期化
- Express5800/ftサーバ本体の準備

ハードディスクドライブの初期化

使用済みハードディスクドライブを利用してftサーバセットアップを行う場合、以下のディスクを初期化してください。

- PCIモジュール(グループ1用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ
- PCIモジュール(グループ2用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ

ハードディスクドライブ初期化手順

1. ROM-DOS起動ディスクを作成する。

ROM-DOS起動ディスクの作成については、本書の「EXPRESSBUILDER」-「EXPRESSBUILDERトップメニュー」-「ツールメニュー」の「サポートディスクの作成」を参照して作成してください。

2. 初期化を行うハードディスクドライブのみをスロットにセットする。

重要

ハードディスクドライブの初期化を行う際は、ハードディスクドライブはPCIモジュール(グループ1用)のスロット1にセットしてください。

3. ROM-DOS起動ディスクをフロッピーディスクドライブに差し込んでシステムを起動する。
4. ROM-DOSが起動され、しばらくして「A:¥」とプロンプトが表示されたら、FDISKコマンドを実行する。
5. 「Do you wish to enable large disk support?[Y]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
6. <A>キーを押し、パーティションをすべて削除する。(A>Delete all partitions)
7. 「Warning!All data on fixed disk 1 will be lost!Are you sure you want to delete?[N]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
8. 「Press Esc to return to menu:」と表示されたら、<ESC>キーを押す。
9. <S>キーを押して、変更を保存する。(S:Save changes (and reboot))
10. 「Changes saved. Press any key to reboot....」と表示されたら、何かキーを押す。
11. 再起動が開始されたら、フロッピーディスクドライブからROM-DOS起動ディスクを抜き出し、電源をOFFにする。

これで、ハードディスクドライブの初期化は完了です。続けて、次ページの前準備を行ってください。

Express5800/ftサーバ本体の準備

Express5800/ftサーバの電源がOFFの状態ですべての前準備を行ってください。

1. Express5800/ftサーバの準備を行う。

次に示す準備を行ってください。

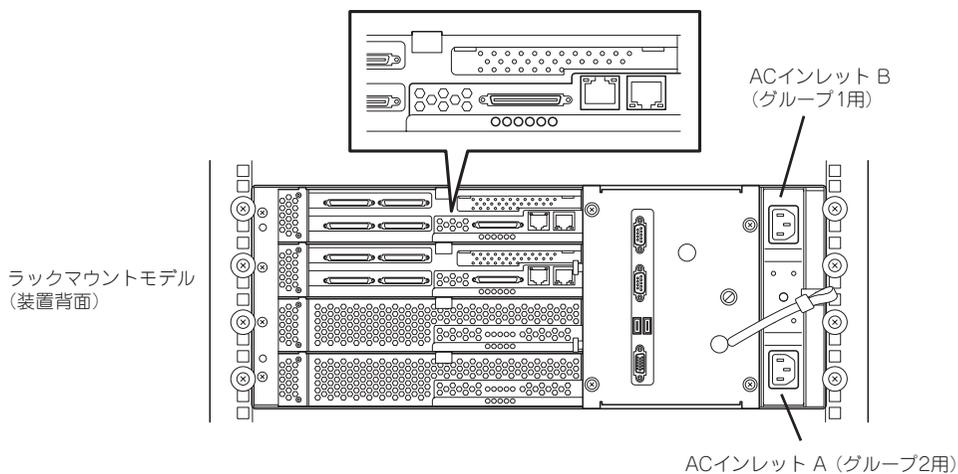
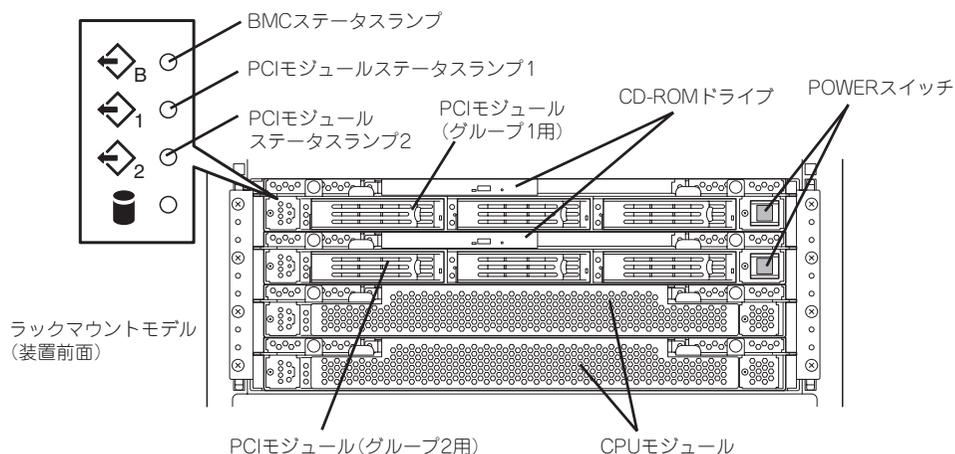
- オプションのPCIボードをすべて取り外す。
- PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)、CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)をすべて実装する。
- ハードディスクドライブはPCIモジュール(グループ1用)のスロット1に1台のみ搭載する。
- LANケーブルをすべて取り外す。

重要

指定のスロット以外には、すべてのモジュールのすべてのスロットに1台もハードディスクドライブを搭載しないでください。ハードディスクドライブが複数台セットされている場合には、インストール先とするハードディスクドライブを特定できません。

2. PCIモジュール(グループ1用)をプライマリにする。

作業や確認に必要な部品の位置は次のとおりです(図はラックマウントモデルのものです。タワーモデルとは向きが異なるだけです)。



<AC電源がOFFの場合>(電源コードがコンセントに接続されていない場合)

以下の順番でExpress5800/ftサーバに電源コードを接続してください。

- (1) ACインレットB(グループ1用)に電源コードを接続する。
- (2) ACインレットA(グループ2用)に電源コードを接続する。
- (3) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (4) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが消灯していることを確認する。

🔑 重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、消灯するまで次の手順を開始しないでください。セットアップが正しく行われなくなります。

<AC電源がONの場合>(電源コードがコンセントに接続されており、本体のPOWERがOFFの場合)

- (1) PCIモジュールのPOWERスイッチのランプを確認する。
 - PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯している場合
PCIモジュール(グループ1用)がプライマリになっています。前準備は完了です。続いてftサーバセットアップを開始してください。
 - PCIモジュール(グループ2用)のPOWERスイッチが点灯している場合
PCIモジュール(グループ1用)がセカンダリになっています。(2)以降の操作を行い、PCIモジュール(グループ1用)をプライマリにしてください。
- (2) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「消灯」していることを確認する。

🔑 重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、(3)以降の操作は行わないでください。BMCファームウェアが破壊されるおそれがあります。

- (3) ACインレットA(グループ2用)の電源コードを抜く。
- (4) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (5) ACインレットA(グループ2用)の電源コードを接続する。
- (6) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが消灯していることを確認する。

🔑 重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、消灯するまで次の手順を開始しないでください。セットアップが正しく行われずおそれがあります。

以上で前準備は完了です。

Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする ～BIOSの設定の変更～

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。

本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています。

再インストールする際、監視機能の設定を無効にしてください。

再インストールが正しくできません。ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。ここで説明する図はラックマウントモデルを示します。タワーモデルと比べると向きが異なるだけです。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、初めから再インストールを行わなければ使用できません。



起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、5章を参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。



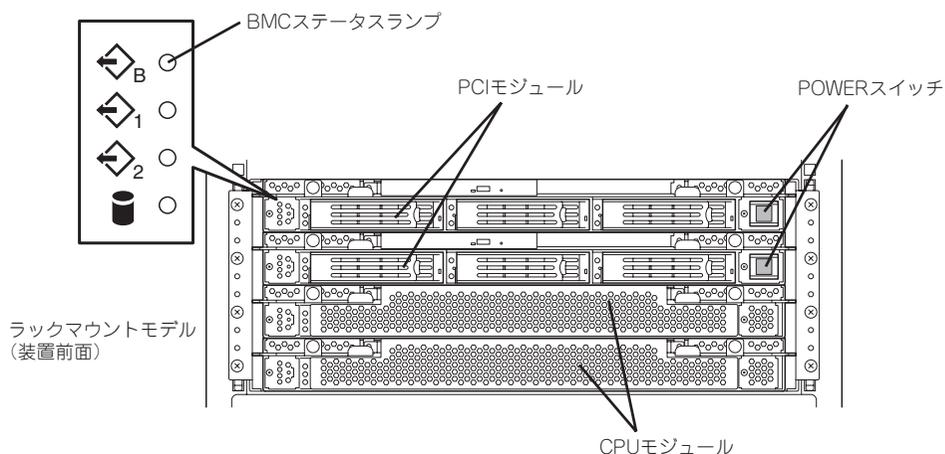
無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。



Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通電後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. フロントベゼルを取り外す(ラックマウントモデルの場合)。
タワーモデルの場合は、フロントベゼルを開けてください。

3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀B)が消灯していることを確認し、Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。



重要

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- 電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀B)の消灯を確認後、POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行してExpress5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは「POSTのチェック」(2-28ページ)をご覧ください。

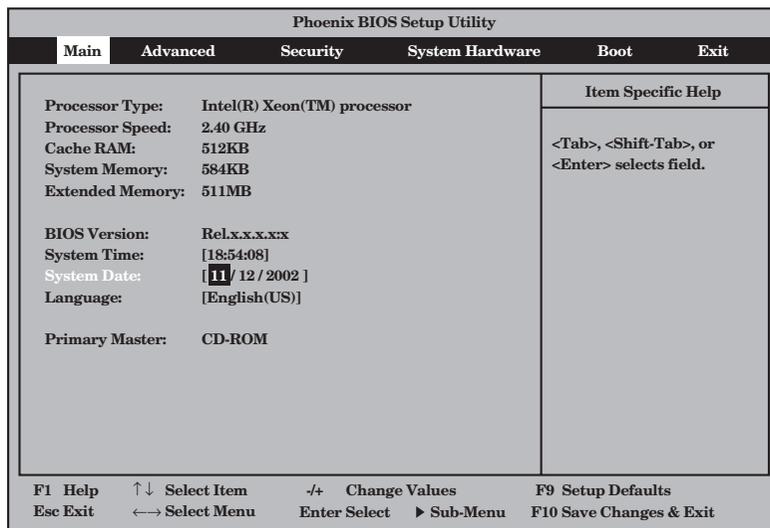
チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。8章を参照してください。

4. ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

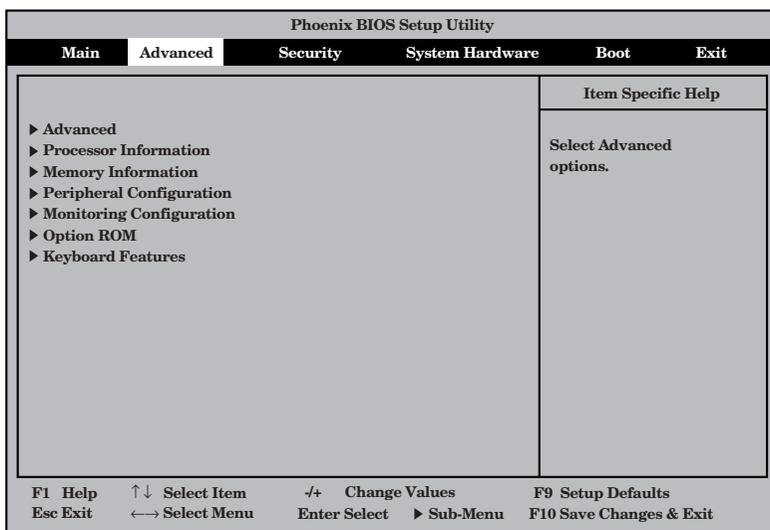
BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

<例>



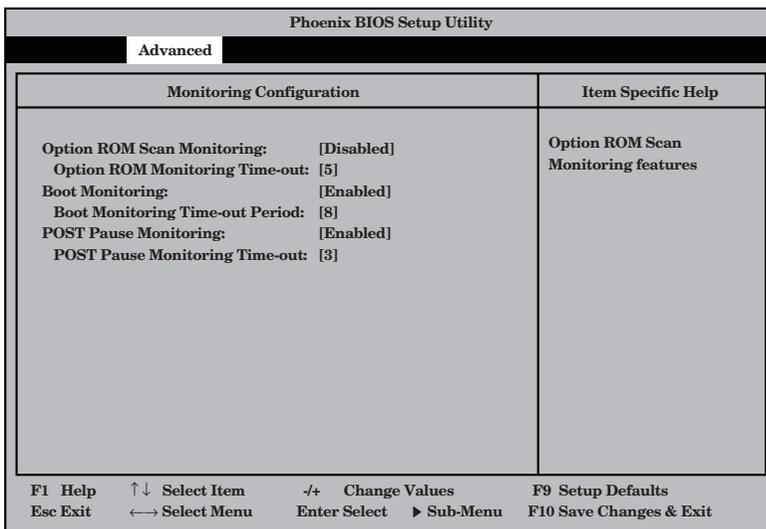
5. カーソルキー(<←>キーか<→>キー)を押して、「Advanced」を選択する。

Advancedメニューが表示されます。



- カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

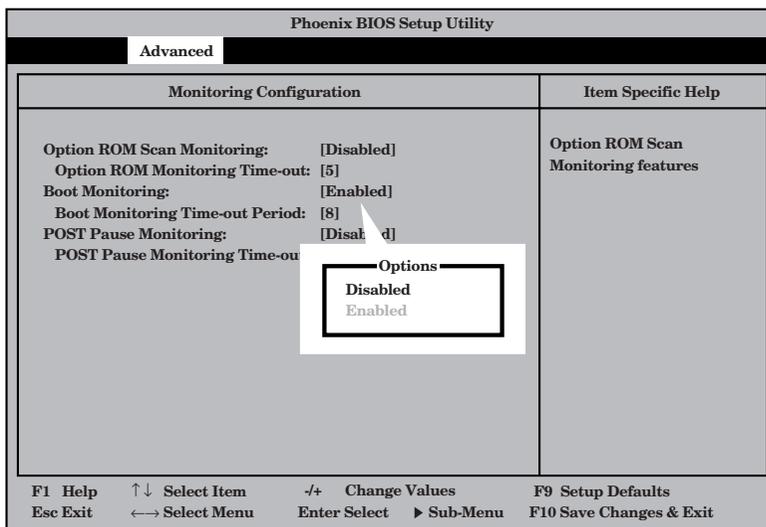


- カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

パラメータが表示されます。

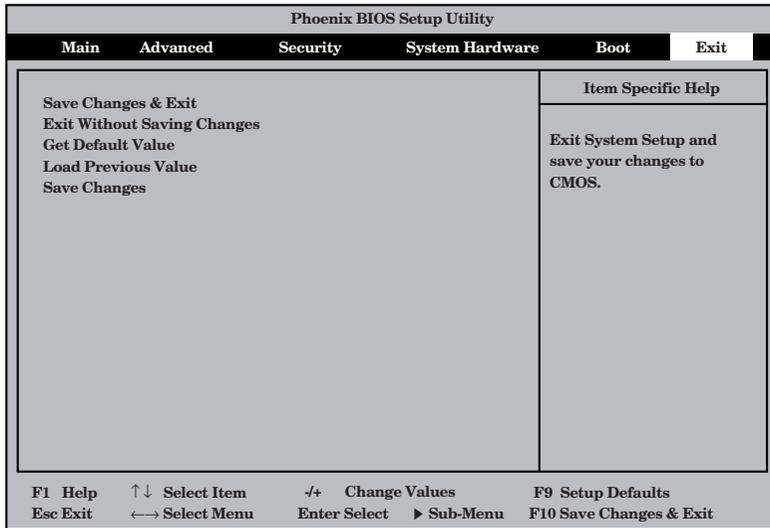
- パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。



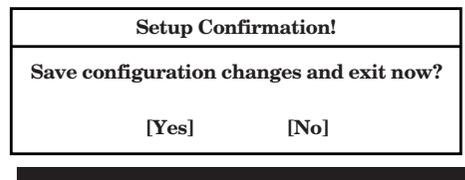
9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。

Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Save Changes & Exit」を選択し、<Enter>キーを押す。

確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。

設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。

以上で切り替えは完了です。



オペレーティングシステムの再インストールをする場合は、再インストールの準備のためにいったん本装置の電源をOFFにしてください。その後、次ページの「Step B-4 ftサーバセットアップ」に進んでセットアップを続けます。

Step B-4 ftサーバセットアップ

以下の手順に従って、ftサーバセットアップを行ってください。



「Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする」(3-40ページ)の設定を行わない場合、Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にWindowsのセットアップを不正に繰り返す場合があります。Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動された場合には、セットアップ手順を初めからやり直す必要があります。

1. Express5800/ftサーバの電源をONにする。
2. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。

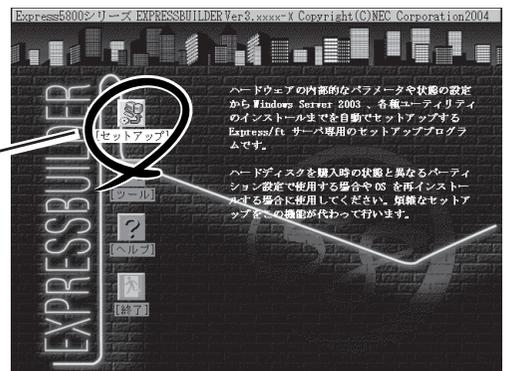
重要

ftサーバセットアップではCD-ROMはPCIモジュール(グループ1用)のCD-ROMドライブにセットしてください。

3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動し、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

4. [セットアップ]をクリックする。



5. 次のメッセージが表示されたら、[確認]をクリックする。

お願い

シームレスセットアップ終了後、セットアップ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップ情報が無いときは、修理復旧時にお客様の装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。バックアップは、空きフロッピーディスクを1枚準備して、ツールでオフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」から「回避」を選択してください。

[確認]

6. 次のメッセージが表示されたら内容を読み、<Enter>キーを押す。

このプログラムはシステムドライブのすべてのファイルを削除し、Windows 2000を再インストールします。その後、Express5800/ftサーバに適切なソフトウェアをインストールします。

注意 - BIOSの「Boot Monitoring」の設定を「Disabled」に変更してください。詳しくはユーザーズガイドを参照ください。

注意 - このプログラムはシステムをリブートします。CD-ROMはドライブに残してください。

警告 - 実行する前に、システムドライブのすべてのデータのバックアップをとってください。

続けるなら"Enter" 中止するなら "CTRL-C"を押してください。

次のメッセージが表示され、ディスクが初期化されます。次のメッセージが表示されている間はディスクの初期化が行われています。しばらくお待ちください。

Express5800/ftサーバ クリアインストールを開始しました。
ディスクを初期化しています・・・

ディスクの初期化完了後、Express5800/ftサーバは自動で再起動します。再起動後、次のメッセージが表示され、ハードディスクドライブのフォーマットが始まります。



チェック

画面に一瞬、「一旦リブートを行います。」と表示されますが、サーバは自動で再起動しますので、何も操作せず、そのままお待ちください。

SWインストール 継続中・・・

ドライブをフォーマットしています・・・

FORMAT v7.10 (Revision4.11.1364)
Copyright(c) 1989 2002 Datalight, Inc.

Formatting 3.07G
XX percent complete.

ハードディスクドライブのフォーマット完了後、CD-ROMからExpress5800/ftサーバシステムソフトウェアをシステムドライブへコピーするメッセージが表示されます。

コピーが完了するまで5分ほどお待ちください。

Copyright(c) 1989 2002 Datalight Inc

Formatting 3.07G
100 percent complete
Writing out file allocation table
Complete
Calculating free space (this may take several minutes) . .
Complete.
Format complete.
System transferred

3,068.90 MB total disk space
114,688 bytes used by system
3,068.79 MB available on disk

4,096 bytes in each allocation unit.
785,606 allocation units available on disk

Volume Serial Number is XXXX-XXXX

CD-ROMからExpress5800/ftサーバシステムソフトウェアをシステムドライブへコピーしています。 . . . 5分ほどお待ちください。

7. コピー完了後、次のメッセージが表示されるので、CD-ROMを取り出して<Enter>キーを押す。
自動的に再起動されます。

Express5800/ftサーバソフトウェアがコピーされました。

CD-ROMを抜いて、Enterキーを押下して終了してください。
ハードディスクから再起動されます。

重要

再起動前に必ずCD-ROMドライブからCD-ROMを抜いてください。CD-ROMを挿入したまま再起動が開始されると、CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動されます。

8. 再起動後、次のメッセージが表示されるので、以下のように操作する。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?

- お手元に「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がある場合
「Y」を入力してください。
- お手元に「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がなく「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのみでインストールを行う場合
「N」を入力してください。

9. ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMの利用可否を再確認するメッセージが表示される。
選択が正しい場合は、「Y」、間違っている場合は「N」を入力してください。

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?

または

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用しません。よろしいですか[Y,N]?

10. <「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ >

次のメッセージが表示されるので「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、[Enter]キーを押す。

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?Y

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?Y

ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを挿入し、Enterキーを押下してください。

重要

「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記メッセージは表示されません。手順11へ進んでください。

11. 「重要：確認1」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要：確認1 ***

- オプションのPCIボードは取り外していますか？
取り外していない場合はftサーバセットアップを中断し、
オプションのPCIボードをすべて取り外してから
再度インストールをやり直してください。
(注)オプションのPCIボードが実装されている場合、
セットアップが正常に完了しません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

12. 「重要：確認2」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要：確認2 ***

- ハードディスクはPCIモジュール（グループ1）スロットに1台のみ
セットしていますか？
ハードディスクが2台以上セットされている場合はftサーバセットアップを
中断し、PCIモジュール（グループ1）スロット1以外のハードディスクを
すべて取り外してから再度インストールをやり直してください。
(注)ハードディスクが複数台セットされている場合には、インストール先
とするディスクを特定できません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

13. 「重要：確認3」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要：確認3 ***

- PCI、CPUモジュールはすべて実装されていますか？
実装されていないPCI、CPUモジュールがある場合には、
すべてのモジュールを実装してください。
すべてのモジュール実装後、何かキーを押してインストールを
継続してください。

Strike a key when ready...

14. 「重要：確認4」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要：確認4 ***
 - LANケーブルは本体より取り外していますか？
 接続されている場合はケーブルを取り外してください。
 取り外した後、何かキーを押してインストールを継続してください。
 Strike a key when ready . . .

15. <「ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ>
 次のメッセージが表示されるので、コピーが完了するまで3分ほど待つ。

CD-ROMからExpress5800/ftサーバ システムソフトウェアをシステムドライブへ
 コピーしています . . . 3分ほどお待ちください。



Express5800/ftサーバ ソフトウェアがコピーされました。

重要

「ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記のメッセージは
 表示されません。手順16へ進んでください。

16. Windows 2000 CD-ROMを要求するメッセージが表示されるので、画面の指示に従って
 Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

Windows 2000 の CD-ROM を差し込んでください。
 Strike a key when ready . . .

17. Windowsのバージョンをチェックした後、Windows 2000プロダクトIDの入力メッセージが
 表示されるので、Windows 2000のプロダクトIDを入力して、[Enter]キーを押下する。
 プロダクトIDは、Express5800/ftサーバに貼り付けられているラベルに記載されています。

Windows 2000 のバージョンをチェックしています . . .
 Windows2000 の ProductID を入力してください。
 注：ハイフンも入力してください。
 入力例：XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
 ProductID ?

18. Windows 2000のプロダクトIDの入力確認メッセージが表示されるので、正しい
 場合は[Y]、間違っている場合は「N」を入力して、[Enter]キーを押下する。

入力された ProductID は
 XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
 です。
 よろしいですか？(Y/N)

19. OSをインストールするパーティションサイズの入力メッセージが表示されるので、OSをインストールするパーティションサイズを入力し、[Enter]キーを押下する。

作成するシステムパーティションサイズを半角数字で入力してください。
注1：設定できる最小のパーティションサイズは3072メガバイトです。
1ギガバイトは1024メガバイトです。
注2：設定したサイズが実際のHDDの容量より大きい場合は、
パーティションサイズはディスク全体になります。
注3：ディスク全体をシステムパーティションにする場合は、
ALLと入力してください。

サイズ? (単位：メガバイト)

🔑 重要

3-36ページの「作成するパーティションサイズについて」を参照し、必ず必要最小限以上のパーティションサイズを指定してください。必要最小限未満のパーティションサイズを指定した場合は、VERITAS Volume Managerのインストールに失敗することがあります。

20. OSをインストールするパーティションサイズの入力確認メッセージが表示されるので、正しい場合は「Y」、間違っている場合は「N」を入力し、[Enter]キーを押下する。

入力されたパーティションサイズはXXXX MByte です。
よろしいですか? (Y/N)

21. 次のメッセージが表示されるので、コピーが完了するまで15分ほど待つ。

システムドライブに Windows 2000 をコピーしています・・・
15分程お待ちください

22. コピー完了後、以下のメッセージが表示されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Windows 2000 のソフトウェアがコピーされました。

23. 次のメッセージが表示されるので、「Y」を入力する。

Windows 2000 Service Pack 4 環境を構築します。

よろしいですか?
[Y, N]?

🔑 重要

- Service Pack4以外の環境を構築するためには、PP・サポートサービスのWebページに公開されたモジュールおよび手順書が必要となります。Service Pack4より古いサービスパックを適用することはできません。PP・サポートサービスのWebページにもモジュールおよび手順書は公開されません。
- 「N」を選択した場合には、次に表示される以下のメッセージに従い、Service Pack4環境を構築してください。

*** 重要 ***

-Service Pack4 以外の環境を構築するためには、
専用のモジュールおよび手順書が必要となります。
専用のモジュールおよび手順書が手元にない場合は
構築する環境の変更を行わないで下さい。

構築する環境の Service Pack を変更します。
よろしいですか?
[Y,N]?

24. 次のメッセージが表示されたら、画面の指示に従って、Service Pack4のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

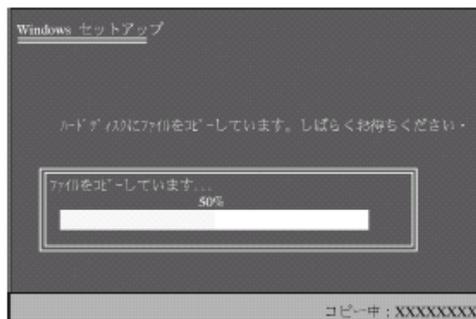
本メッセージは表示されない場合があります。

CD-ROM を取り出して、Windows 2000 Service Pack 4 の CD-ROM を差し込んでください。インストール終了時まで Service Pack の CD-ROM は差し込んだままにしておいてください。

🔑 重要

Service Pack4が適用済みのWindows 2000 CD-ROM媒体を利用した場合には、上のメッセージは表示されません。手順25に進んでください。EXPRESSBUILDER Version 3.005d-f以降が添付された装置には、Service Pack 4が適用済みのWindows 2000 CD-ROMが添付されています。

25. Windows 2000のインストールが自動的に開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。



🔑 重要

- 自動インストール中(手順26~38)は、インストール進行状況をメッセージ表示するウィンドウと各アプリケーションのインストールウィザードが表示されますが、インストールは自動的に行われます。手順39の[Windows 2000セットアップウィザードの開始]画面が表示されるまで何も操作しないでください。
- 自動インストール中(手順26~38)、Express5800/ftサーバは[Windows 2000セットアップウィザードの開始]画面が表示されるまで、セットアップのために何度か自動的に再起動を行います。何も操作せず、そのままお待ちください。

26. 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

🔑 重要

- 再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されることがありますが、何も操作しないでください。
- オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示されることがありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合は、DOSプロンプトが表示されて処理が停止します。この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押下するか、電源をON/OFFしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。

27. 自動的に再起動された後、ファイルシステムがFAT32からNTFSへ変更され、ファイルシステムの変更が自動的に行われるので、何も操作せず、そのまま待つ。

28. 自動的に再起動された後、[Windows 2000 Server セットアップ]画面が表示され、自動でセットアップが進行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

以下のセットアップが自動で進行されます。

[デバイスのインストール]→[ライセンスモード]→[ネットワークの設定]→[コンポーネントのインストール]→[最後のタスクの実行]。

29. 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

重要

- 再起動後時に「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでください。
- オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示されることがありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合は、DOSプロンプトが表示されて処理が停止します。この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押下するか、電源をON/OFFしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。

30. 再起動後、次の画面が表示され、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

システム設定が自動で行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール

** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

システム設定中
約2分後に自動的に再起動を行います。

*** Setting [ft series environment] ***
*** Checking [disk space] ***
*** Installing [Stratus Embedded QL-ISP12160 (64 bit PCI DUAL 160M SCSI HBA)] ***

10秒後に再起動します。

重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合は、インストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。

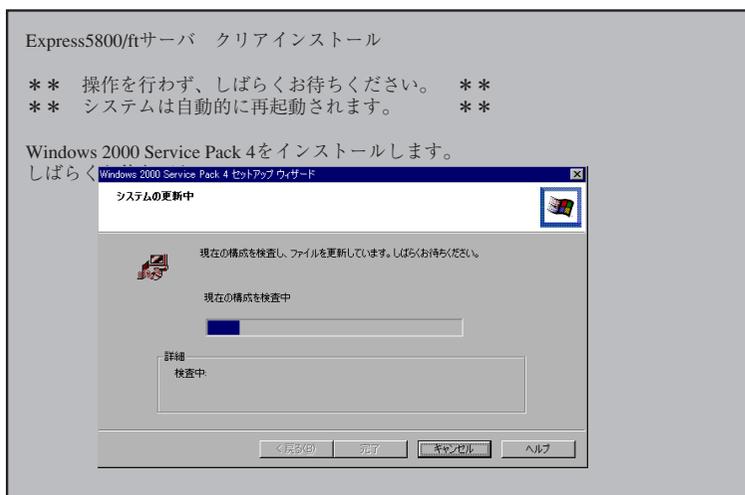
31. 自動的に再起動された後、次の画面が表示され、Windows 2000 Service Packのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Windows 2000 Service Packインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。本処理は実行されない場合があります。

重要

Service Pack4が適用済みのWindows 2000 CD-ROMを利用した場合には、本処理は実行されません。手順32に進んでください。

EXPRESSBUILDER Version 3.005d-F以降が添付された装置には、Service Pack4が適用済みのWindows 2000 CD-ROMが添付されています。



重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合は、インストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めからftサーバセットアップを実施する必要があります。

32. Windows 2000 Service Packのインストール完了後、次のメッセージが表示され、自動的に再起動が行われるので、何も操作せず、そのまま待つ。

10秒後に再起動します。

33. 自動的に再起動された後、次の画面が表示され、インストールが実行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Express5800/ftサーバソフトウェアのインストールが自動で行われます。

```
Express5800/ft サーバ クリアインストール

** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

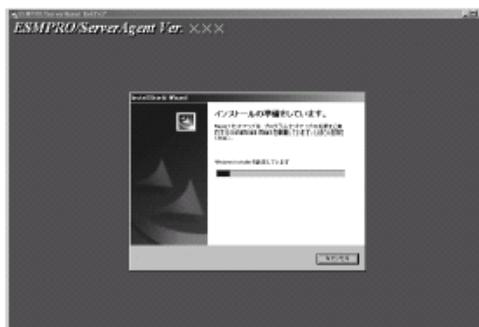
*** Setting [ft series environment (Preparation)] ***
*** Setting [ft series environment (NECHWID)] ***
*** Installing [Stratus USB OpenHCD Host Controller] ***
*** Setting [Timeout for non-communication time] ***
*** Installing [Stratus Big Board Driver] ***
*** Installing [IPMI] ***
*** Installing [PROSET II] ***
*** Copying [ft files] ***
*** Installing [SRAPS] ***
*** Installing [DLL files] ***
*** Installing [mof files] ***
*** Installing [Stratus Debug Print Driver] ***
*** Installing [NEC ESMPRO Agent] ***
```

重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合は、インストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。

34. 右の画面が表示され、ESMPRO / ServerAgentのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

ESMPRO/ServerAgentインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。



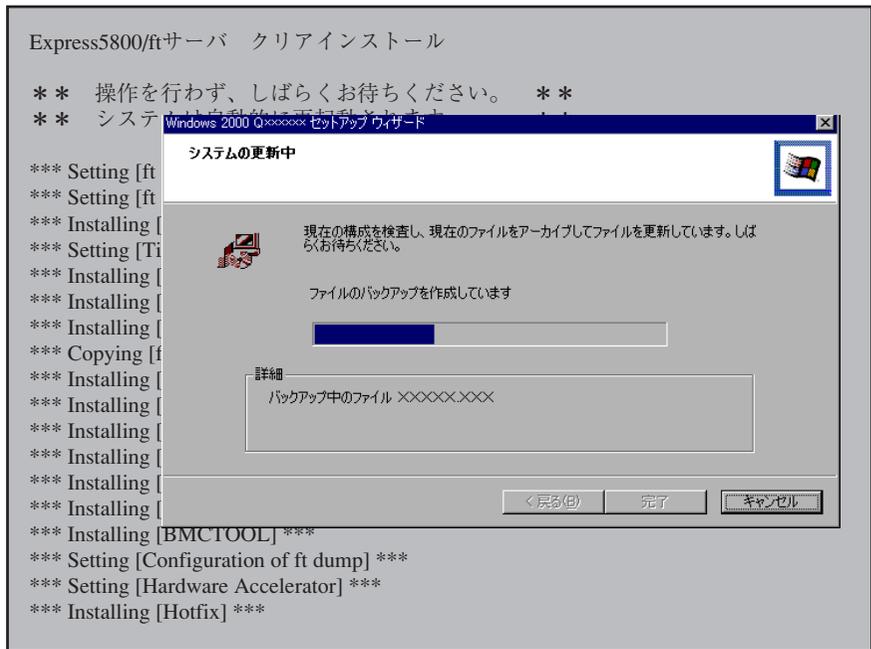
35. 右の画面が表示され、エクスプレス通報サービスのセットアップが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

エクスプレス通報サービスSetupウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。



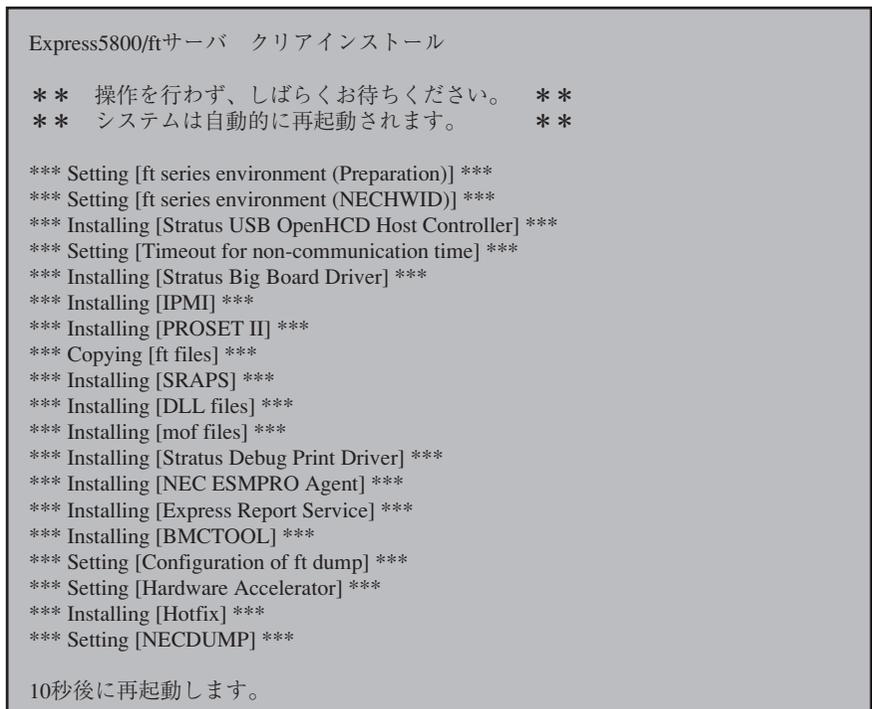
36. 次の画面が表示され、Windows 2000 HotFixのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Windows 2000 HotFixのインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。



37. Windows 2000 HotFixのインストール完了後、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Express5800/ftサーバソフトウェアのインストール完了後、自動で再起動が行われます。



38. 再起動後、次の画面が表示され、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Express5800/ftサーバの設定を行った後、自動で再起動されます。

```
Express5800/ft サーバ クリアインストール

** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

PCI モジュール (グループ 2 用) を認識中.....
PCI モジュール (グループ 2 用) を認識しました。

*** Setting [Configuration of PCI auto bringup] ***

10 秒後に再起動します。
```

重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合は、インストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。

39. 自動的に再起動された後、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始]画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。

ウィザードに従って操作を行ってください。ウィザードでの操作完了後、自動的に再起動されます。

重要

[ライセンス契約]画面では内容をよく読んでください。同意する場合は、[同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。同意しない場合は、[同意しません]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。ただし、同意しないとセットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

40. 自動的に再起動された後、Administratorのユーザー名で自動でログオンされるので、何も操作せず、そのまま待つ。

41. 次のメッセージが表示され、ftサーバセットアップが続行されるので、何かキーを押して処理を続行する。

```
*****
Express5800/ft サーバ クリアインストール続行中...
画面の指示にしたがって操作してください。
*****

続行するには何かキーを押してください...
```

42. 次のメッセージが表示されるので、画面の指示に従って該当するCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、何かキーを押下する。

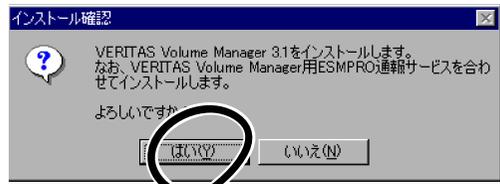
CD を CD-ROM ドライブに挿入してください。

- EXPRESSBUILDER のみ使用して ft サーバセットアップを行った場合は、EXPRESSBUILDER の CD を CD-ROM ドライブに挿入してください。

- ft 制御ソフトウェア UPDATE CD を使用して ft サーバセットアップを行った場合は、ft 制御ソフトウェア UPDATE CD を CD-ROM ドライブに挿入してください。

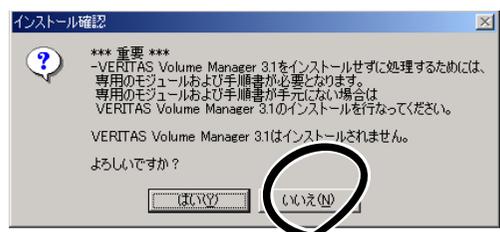
続行するには何かキーを押してください...

43. VERITAS Volume Manager 3.1のインストールを確認するメッセージが表示されるので、[はい]を押下する。



重要

- VERITAS Volume Manager 3.1をインストールせずに処理するためには、PP・サポートサービスのWebページに公開されたモジュールおよび手順書が必要となります。モジュールおよび手順書は、本装置において、VERITAS Volume Manager 3.1以外のソフトウェアがサポートされた場合にPP・サポートサービスのWebページに公開されます。
- [いいえ]を押下した場合には、右に表示される以下のダイアログボックスで [いいえ] を押下し、VERITAS Volume Manager 3.1をインストールしてください。

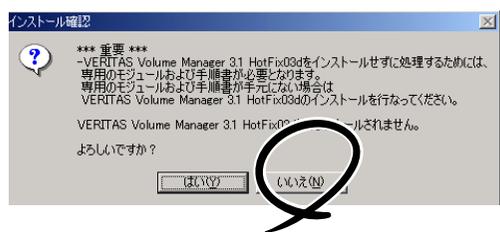


44. 続いてVERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03dのインストールを確認するメッセージが表示されるので、[はい]を押下する。



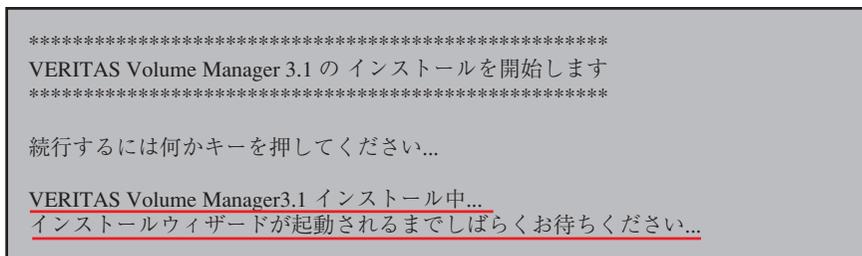
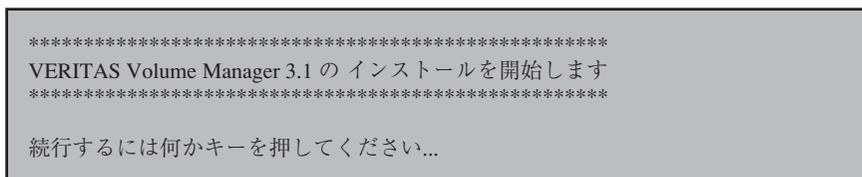
重要

- VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03dをインストールせずに処理するためには、PP・サポートサービスのWebページに公開されたモジュールおよび手順書が必要となります。モジュールおよび手順書は、本装置において、VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03d以外のソフトウェアがサポートされた場合にPP・サポートサービスのWebページに公開されます。
- [いいえ]を押下した場合には、右に表示される以下のダイアログボックスで [いいえ] を押下し、VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03dをインストールしてください。



45. VERITAS Volume Manager 3.1をインストールするメッセージが表示されるので、画面の指示に従って何かキーを押下する。

VERITAS Volume Manager 3.1のインストールが開始されます。

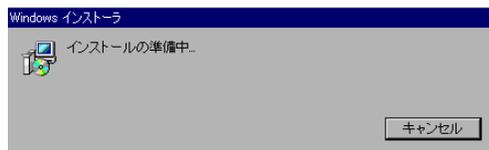


重要

VERITAS Volume Manager 3.1 インストール時にディスクの空き容量不足のため、右のダイアログボックスが表示される場合があります。この場合、パーティションサイズを計算し直して、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施してください。



46. VERITAS Volume Manager 3.1インストールウィザードが起動されるので、手順47の画面が表示されるまで何も操作せず、そのまま待つ。



重要

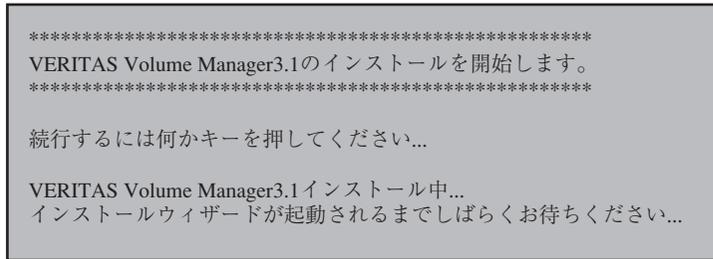
絶対に[キャンセル]をクリックしないでください。[キャンセル]がクリックされた場合、セットアップは正常に終了しません。

47. 次の画面が表示されるので、[はい]をクリックする。



重要

このときVERITAS Volume Manager 3.1インストールウィザード画面の背面で動作している次の画面は絶対に終了させないでください。次の画面が終了された場合、セットアップは正常に終了しません。初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。



48. 以下の画面が表示されるので、何も操作せず、そのまま待つ。



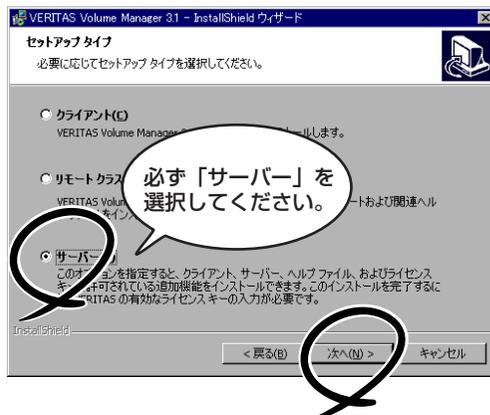
49. 次の画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。



50. 右の画面が表示されるので、[OK]をクリックする。



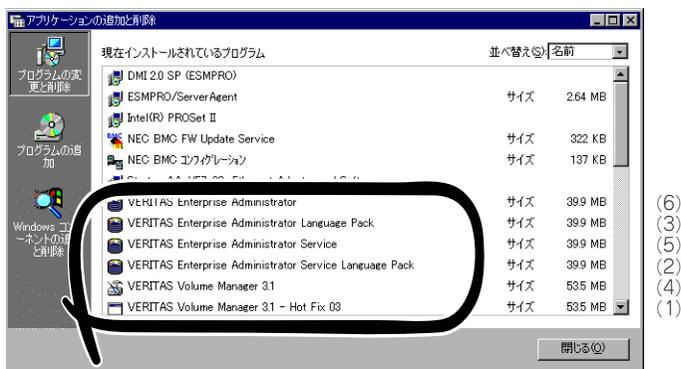
51. 右の画面が表示されるので、必ず「サーバー」を選択し、[次へ]をクリックする。



重要

必ず「サーバー」を選択してください。誤って「サーバー」以外のセットアップタイプを選択してインストールを行った場合は、手順62のログオン後に、以下の操作で[サーバ]のインストールを行ってください。

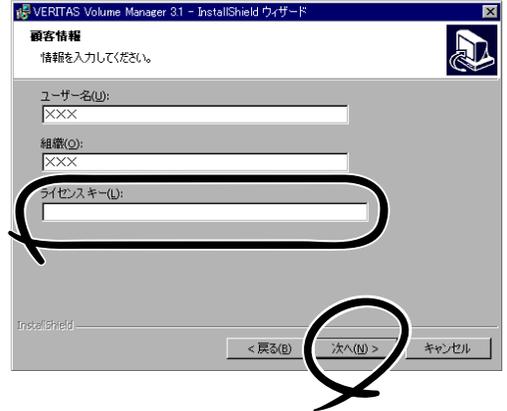
1. [コントロールパネル]－[アプリケーションの追加と削除]から、以下の順序で6つのプログラムをアンインストールする。
 - (1) VERITAS Volume Manager 3.1－HotFix03
 - (2) VERITAS Enterprise Administrator Service Language Pack
 - (3) VERITAS Enterprise Administrator Language Pack
 - (4) VERITAS Volume Manager 3.1
 - (5) VERITAS Enterprise Administrator Service
 - (6) VERITAS Enterprise Administrator



2. 再起動させる。
3. 6-101ページを参照して以下をインストールする。
 - － VERITAS Volume Manager 3.1
 - － VERITAS Volume Manager 3.1 HotFix03
 - － VERITAS Volume Manager用ESMPRO通報サービス
4. 再起動させる。

52. 右の画面が表示されるので、[ライセンスキー]を入力し、[次へ]をクリックする。

VERITAS Volume Managerのライセンスキーは、Express5800/ftサーバ本体にライセンスキーが記載されたIDラベルが貼り付けられています。ライセンスキーには、“0(数値)”、“1(数値)”、“5(数値)”、および“Q(アルファベット)”は利用しておりません。



53. 右の画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。



重要

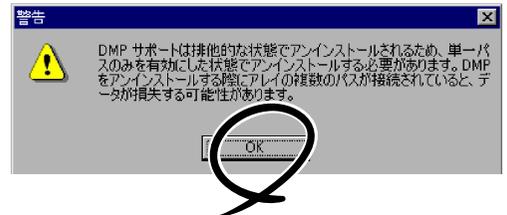
- 「Volume Manager 3.1 DMPサポート」、 「Volume Manager 3.1 MSCSサポート」は既定値のまま無効でインストールしてください。



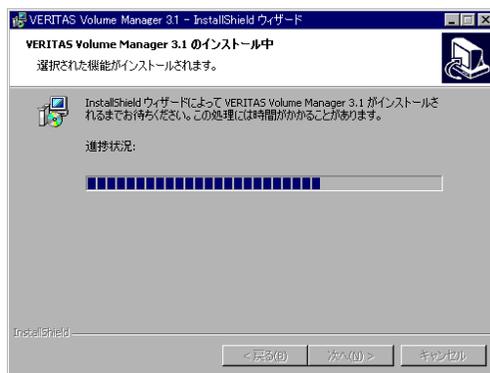
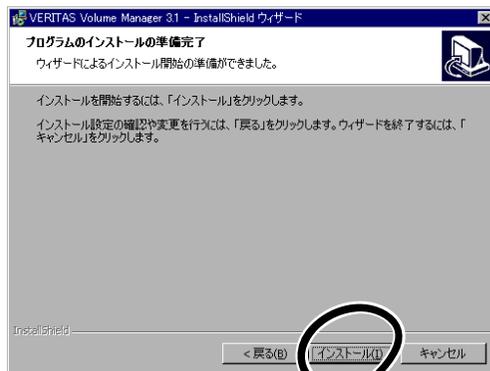
無効(既定値)

- 標準でインストールされるVERITAS Volume Managerの動的配置およびホットスワップ機能は、本装置では使用しないでください。

54. 右の画面が表示されるので、[OK]をクリックする。



55. 右の画面が表示されるので、[インストール]をクリックする。



56. 右の画面が表示されるので、画面右下の [キャンセル] または画面右上の「×」をクリックし、キャンセルする。



57. 手順56で[キャンセル]または「×」をクリックすると右の画面が表示されるので、[はい]をクリックし、キャンセルする。



58. 右の画面が表示されるので、[完了]をクリックする。



59. VERITAS Volume Manager3.1のインストールが完了し、続いてVERITAS Volume Manager HotFix03dのインストールが自動的に開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。
 VERITAS Volume Manager HotFix03dのインストールには数分間かかります。しばらくお待ちください。

```

VERITAS Volume Manager 3.1 の インストールを完了しました。

*****
VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを開始します
*****

VERITAS Volume Manager HotFix03d インストール中...
数分間お待ちください...
  
```



```

VERITAS Volume Manager 3.1 の インストールを完了しました。

*****
VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを開始します
*****

VERITAS Volume Manager HotFix03d インストール中...
数分間お待ちください...

VERITAS Volume Manager HotFix のインストールを完了しました。
  
```

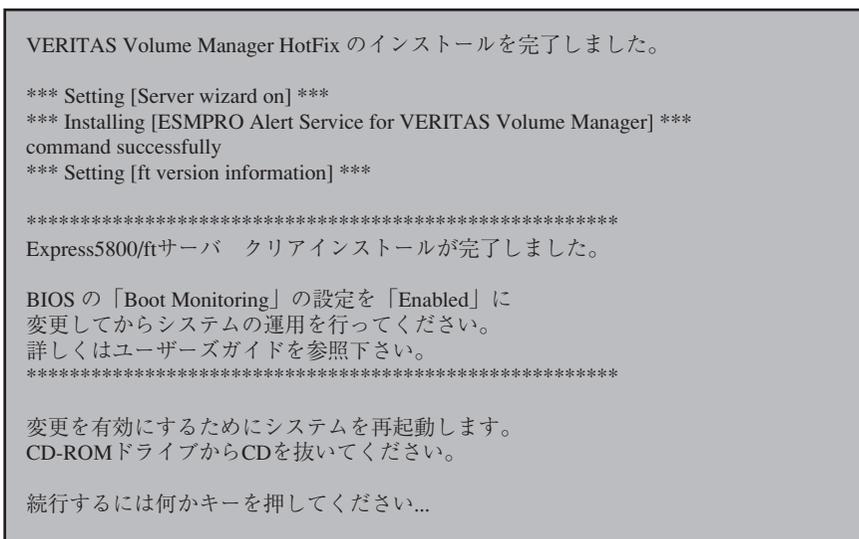
重要

手順45の「重要」のようにディスクの空き容量不足などが原因でVERITAS Volume Manager 3.1がインストールされなかった場合、右のダイアログボックスが表示されます。この場合、パーティションサイズを計算し直して、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ」を実施してください。



60. 次の画面が表示されるので、画面の指示に従ってCD-ROMドライブからCDを抜き、何かキーを押下する。

自動的に再起動されます。

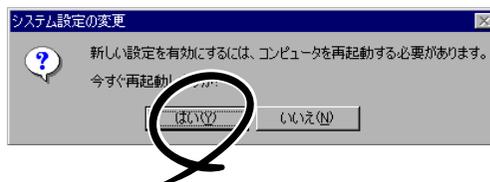


61. 自動的に再起動された後、Administratorのユーザー名でログオンする。

62. ログオン後、右の画面が表示されるので、[完了]をクリックする。



63. 右の画面が表示されるので、[はい]をクリックし、再起動する。



ftサーバセットアップは以上です。

再起動後にWindowsセットアップウィザードの画面が表示されます。
引き続き、「Step C-1 106キーボードの設定」(3-65ページ)を行ってください。

Step C-1「106キーボードの設定」(3-65ページ)へお進みください。

Step C-1 106キーボードの設定

SSU(サーバスイッチユニット)経由でキーボードを接続していない場合には、
「Step C-2 LANの二重化を設定する」(3-66ページ)へ進んでください。

SSU(サーバスイッチユニット)経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されます。

そこで、アップデートを行い、101キーボードとして登録されている情報を106キーボードに変更し、SSU経由で106キーボードを使用できるように情報を変更します。



- 再インストールの際にSSU経由で、キーボードを接続していた場合のみ必要となる設定です。その他の場合は設定する必要ありませんので次に進んでください。
- この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

アップデート実行手順を以下に説明します。

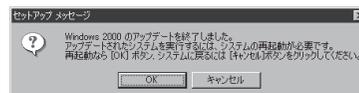
1. EXPRESSBUILDER CD-ROMまたは「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」に格納されているSsu106¥update.exeを実行する。

セットアップ画面が表示されます。

2. [OK]をクリックする。



アップデートが終了すると、システムの再起動を促すメッセージボックスが表示されます。



他にアップデートを適用する必要がない場合は、[OK]をクリックし、システムの再起動を行ってください。

他にアップデートを適用する必要がある場合は、[キャンセル]をクリックし、アップデートを継続してください。



106キーボードが106キーボードとして認識されている環境ではアップデートは行われず、処理は中断されます。

アップデートでの修正内容は、システムの再起動後に有効となります。

Step C-2 LANの二重化を設定する

Express5800/ftサーバでは、PCIモジュール上に標準で搭載されている「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」(100Base)、および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」(1000Base)を使用してLANの二重化を構築します。

使用しない(ケーブルを接続しない)イーサネットアダプタについては、コントロールパネルの[ネットワーク接続]などで無効に設定してください。

なお、無効にするイーサネットアダプタでLANの二重化を解除してから無効の設定を行ってください。

無効の設定を行っておらず、イーサネットアダプタにケーブルを接続していない場合、ESMPRO/ServerAgentではそのポートを故障(媒体なし)と判断し、データビューアの[FtServer]–[PCIモジュール]–[イーサネットボード]の状態色は赤(異常)、また総合ビューアのサーバの状態色も赤(異常)となります。



この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

1. 以下のどちらかのスタートメニューモードを使用し、[Intel PROSet II]ダイアログボックスを表示させる。

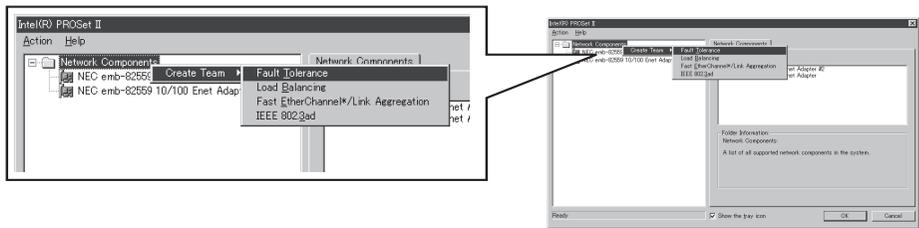
<標準のスタートメニューモード>

[スタート]メニューから[コントロールパネル]–[Intel PROSet II]をクリックする。

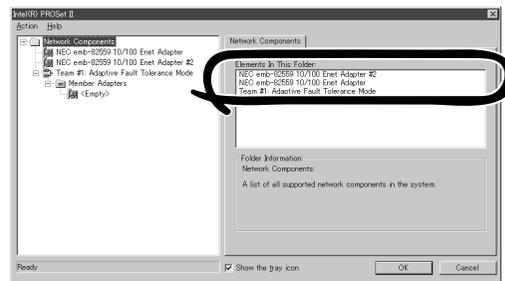
<クラシックスタートメニューモード>

- ① [スタート]メニューから[設定]–[コントロールパネル]をクリックする。
- ② [Intel PROSet II]アイコンをダブルクリックする。

2. NetWork Component Treeから[NetWork Components]を選択してポップアップメニューから[Create Team]–[Fault Tolerance]を選択する。

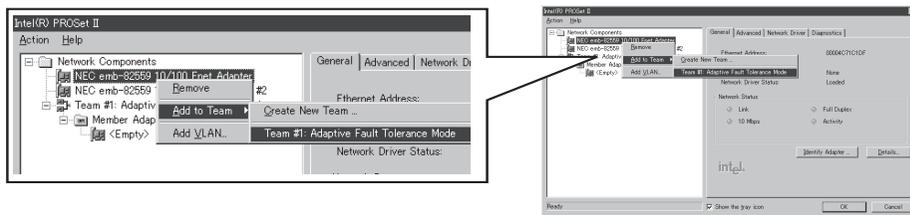


NetWork Component Treeに[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]が追加されます。



- NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を選択し、ポップアップメニューを表示させて[Add to team]－[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]を選択してアダプタを追加する。

追加後、警告メッセージが表示されますが、問題ありません。そのまま[OK]をクリックしてください(まだ1つしか追加していないために表示されるメッセージです)。



- 手順3と同じように、NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter #2]を選択し、ポップアップメニューを表示させて[Add to team]－[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]を選択してアダプタを追加する。

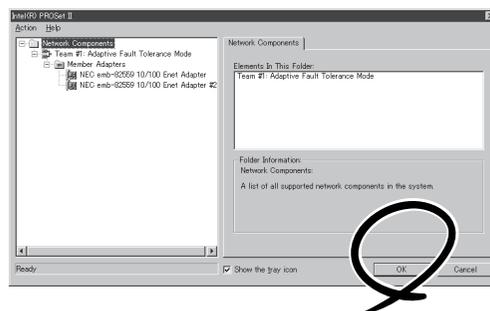
重要

それぞれのアダプタに対し、[Preferred Primary]、[Preferred Secondary]は指定しないでください。

- [Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter](1000Base)についても二重化設定を行う。同じように手順2～4を行ってください。その際、[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を[Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter]に読み替えて選択してください。また、手順2で、[Fault Tolerance]だけではなく、[Load Balancing]の設定をすることもできます。その場合は、[Team #X:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。

- [OK]をクリックする。

しばらくすると、[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスが閉じ、設定が有効になります。



重要

- [デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示されることがあります。表示された場合は、[はい]をクリックしてください(複数回表示されます)。
- 二重化設定を終了後、[ネットワークとダイヤルアップ接続]または[デバイスマネージャ]ダイアログボックスに「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」が表示されるようになります。このため100Base/1000Base、合わせて6個のアダプタが表示されるようになります(オプションのLANコントローラが接続されていない場合)。このアダプタの「状態」を「無効」に設定しないでください。再度、「有効」に戻すと、システムが不安定になり、システムの再起動が必要になる場合があります。
- IPアドレスは、LANの二重化設定後、「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」に設定してください。「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」にはIPアドレスを設定しないでください。
- 二重化設定(Team)した際はハブを使用する必要があります。AFT機能を使用する場合、リピータ・ハブ、スイッチング・ハブのどちらも使用できます。ALB機能を使用する場合は、スイッチング・ハブを使用してください。
- LANケーブルはプライマリ、セカンダリ両方のPCIモジュールに接続してください。二重化設定を終了後、片方のLANケーブルを抜くとPCIモジュールの二重化が外れてしまいます。もし、LANケーブルを抜いてPCIモジュールの二重化が外れてしまった場合、再度LANケーブルを接続すれば二重化状態に戻ります。

Step C-3 ディスクの二重化を設定する

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、「Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う」(3-73ページ)へ進んでください。

Express5800/ftサーバ出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっております。

Express5800/ftサーバでは、ディスクのミラーリングによってデータの保全を図ります。必ずディスクの二重化設定をしてください。



- [コンピュータの管理]－[ディスクの管理]が表示されている場合は、VERITAS Volume Manager 3.1の「サーバ」が正しくインストールされていません。この場合、正しくインストールし直してください。
- 「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、ディスクの二重化は設定してありますので、この作業は必要ありません。「Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う」(3-73ページ)へお進みください。



この手順を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログオンしなければなりません。



- OSインストール時だけでなく、以降パーティションを作成する際にも必ず同様にミラーリングを行ってください。
- ミラーのためのディスクは、必ずシステムパーティションがあるディスクをダイナミックにアップグレード後に対応したスロットにセットしてください。アップグレードする前にディスクはスロットにセットしないでください。
- ミラーを設定するディスクは、ディスクのターゲットIDが同一のもので設定してください。詳細については、4-4ページの「構築可能なディスク構成について」を参照してください。

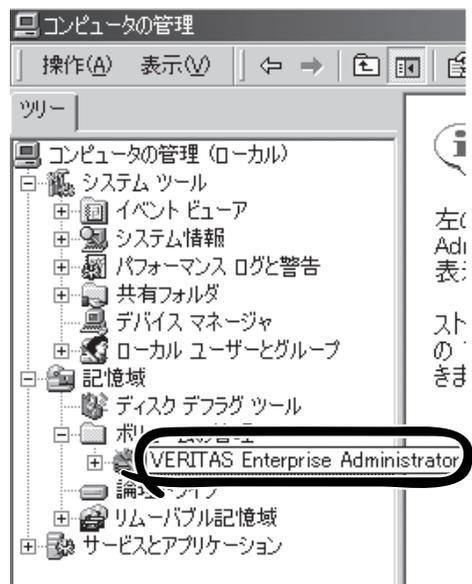
1. [スタート]－[設定]－[コントロールパネル]をクリックする。

[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックする。

[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。

3. コンソールツリーで[記憶域]配下の[ボリュームの管理]－[VERITAS Enterprise Administrator]をクリックする。

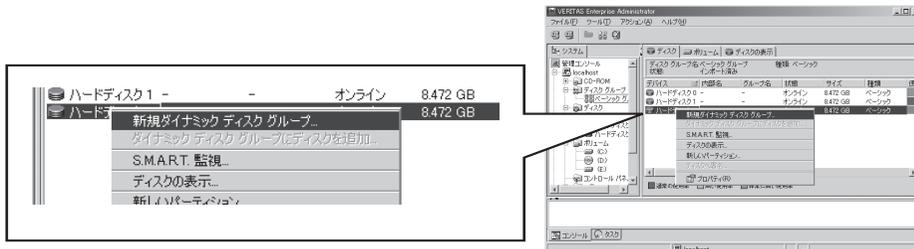


4. [接続]ダイアログボックスの[ホスト名]に「localhost(またはマシン名)」を指定して接続する。

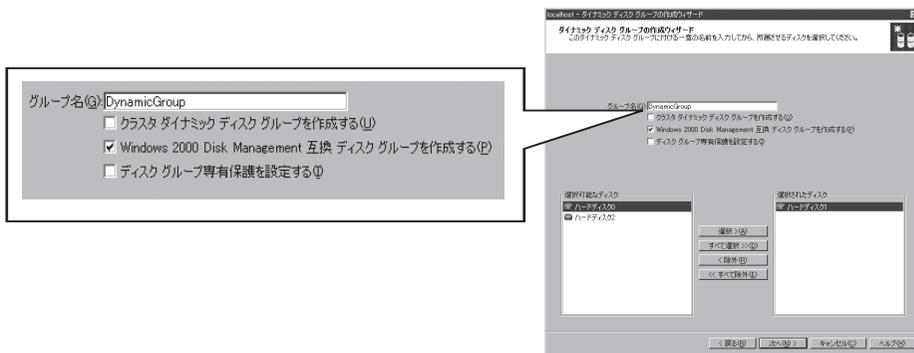


5. [VERITAS enterprise Administrator]のlocalhost(またはマシン名)配下のツリーで、[ディスクグループ]→[ベーシックグループ]をクリックして右パネルにハードディスクドライブの一覧を表示させ、システムがインストールされているディスクを右クリックし、[新規ダイナミックディスクグループ]をクリックする。

ダイナミックディスクグループの作成ウィザードが表示されます。

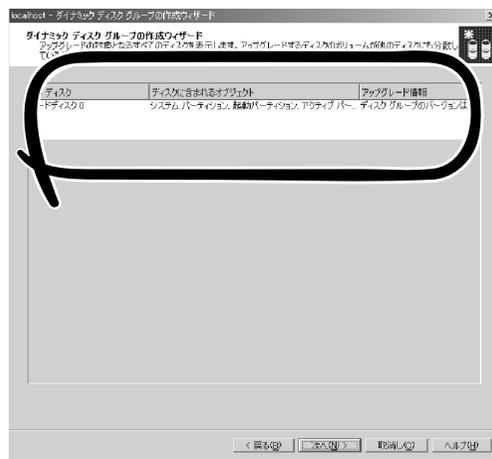


6. [グループ名]に「DynamicGroup」と入力し、[Windows 2000 Disk Management 互換 ディスクグループを作成する]にチェックを入れる。



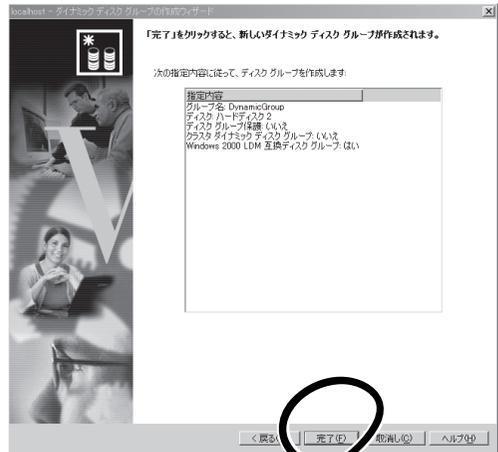
7. 選択されたディスクがシステムをインストールしたディスクであることを確認し、[次へ]をクリックする。

8. アップグレードするディスク一覧を確認して、[次へ]をクリックする。



9. 最後に[完了]をクリックしてディスクをアップグレードする。

ダイナミックにアップグレードする際、「前のWindowsを起動できない」や「強制的にマウントを解除」のメッセージが表示されますが、[はい]をクリックして、再起動してください。その場合、複数回再起動を要求された場合は、指示に従って再起動をしてください。
再起動は、PCIモジュールが二重化されたことを確認後、実施してください。



重要

ディスクの二重化設定において再起動を行う場合、次のことに注意してください。

- システムがインストールされているディスクをダイナミックにアップグレードする際、システムの再起動を複数回要求されることがあります。再起動を行う場合には、PCIモジュールの二重化を確認してから行ってください。PCIモジュールが二重化される前に再起動が行われると、LANの二重化が外れていることがあります。LANの二重化が外れた場合は、再度LANの二重化設定を行ってください。
- PCIモジュールの二重化は以下のように確認してください。
PCIモジュールの二重化は、PCIモジュール#1とPCIモジュール#2のステータスランプが両方とも緑色に点灯していることで確認されます。詳細については、2-19ページの「PCIモジュールステータスランプ1/2」を参照してください。

10. 再起動後、再び[VERITAS enterprise Administrator]を表示し、ミラーボリュームを作成するためのディスクをセットする。

なお、[ディスクのアップグレードウィザードと著名ウィザード]が表示された場合は、ウィザードを開始してディスクのアップグレードと著名を行ってください。
スロットにディスクをセットした後、ハードウェア検出のウィザードが表示されます。ハードウェア検出のウィザードが表示されない場合は、ツールバーの[アクション/再走査]をクリックし、ディスクのスキャンを実行してください。

重要

ミラーリングするディスクは必ず対応したスロットにセットする必要があります。詳細については9-6ページの「3.5インチハードディスクドライブ」を参照してください。

11. 検索方法として「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、[次へ]をクリックする。
12. 表示される一覧でモデルが「Stratus Dual initiated disk Device」と表示されていることを確認し、そのまま完了と表示されるまで[次へ]をクリックする。

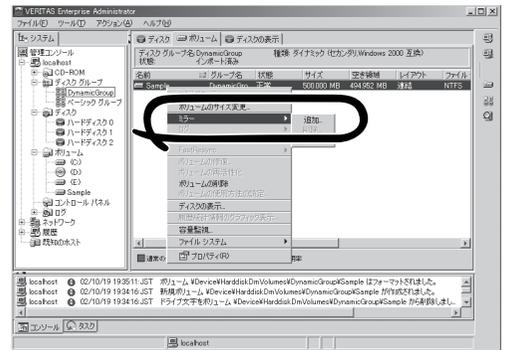
13. セットしたディスクがダイナミックではない場合はダイナミックにアップデートする。

重要

ダイナミックにアップデートする場合に、ディスクの署名が起動ディスクと同一のためにアップデートできない場合があります。この場合は、対象のディスクを物理フォーマットした上で、再度、ディスクの二重化をやり直してください(OSがインストールされているディスクを物理フォーマットしないように注意してください)。

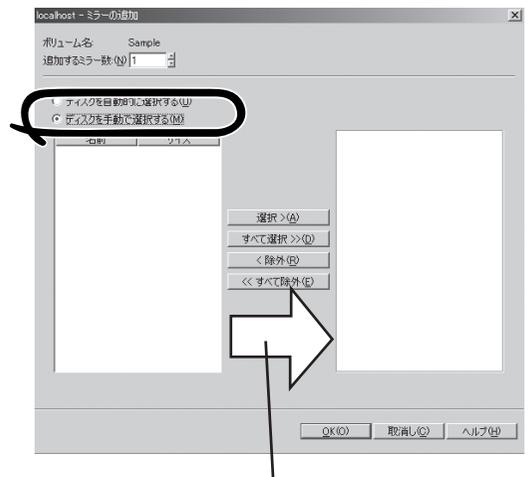
ディスクの物理フォーマットは、SCSI BIOSユーティリティ「Fast!UTIL」の「SCSI Disk Utility」により、「Low-Level Format」により行います。詳細は、5-28ページの「SCSI BIOS ~Fast!UTIL~」を参照してください。

14. ミラーを作成するダイナミックディスクのボリュームを右クリックし、[ミラー]-[追加]をクリックする。



セットアップ

15. [ミラーの追加]が表示されたら、[ディスクを手動で選択する]にチェックし、ミラーとなるディスクを選び、[選択]をクリックする。



ミラーとなるディスクを選び、[選択]をクリックすると移動する

16. 設定を確認して、[OK]をクリックする。

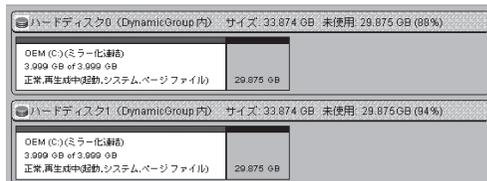
ヒント

ミラーの生成には、18GBのハードディスクドライブで約37分かかります。

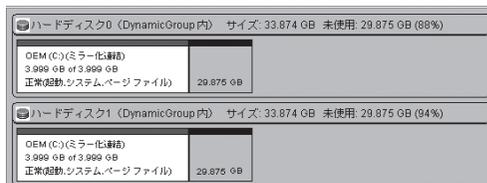
重要

ミラーの生成中に再起動するとミラーが完了しません。ミラーの処理が完了するまでは再起動しないでください。

17. ミラーリングが始まったことを確認する。



表示が「再同期中」から「正常」に変化したら、ミラーは完了です。



Step C-4 各種ソフトウェアのアップデート

「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n)」UPDATE CD-ROMを利用していない場合は、「Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う」(3-73ページ)に進んでください。

「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n)UPDATE CD-ROM」を利用してインストールした場合には、CD-ROM内の「ft制御ソフトウェア(Ver:n.n).doc」を参照してすべてのアップデートモジュールを適用してください。ただし、以下については「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n)UPDATE CD-ROM」から最新のアップデートモジュールが自動適用されていますので、ここでの個別のアップデートモジュールの適用は不要です。

- － ft制御ソフトウェア(Ver:n.n)アップデートモジュール
- － VERITAS Volume Manager
- － VERITAS Volume Manager HotFix
- － VERITAS Volume Manager用ESMPRO通報サービス

ESMPRO/ServerAgentはftサーバセットアップで自動インストールされますが、最新モジュールの適用は行われません。「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n)UPDATE CD-ROM」から個別にアップデートモジュールを適用する必要があります。

Step C-5 各種オプション装置の接続・設定を行う

本体装置へ接続するオプションPCIボードおよび周辺装置がある場合は、本体の電源をOFFにし、9-32ページの「PCIボード」および装置の説明書に従って接続してください。



「初めて電源をONにするときのセットアップ」を実施している場合は、「ビルド・トゥー・オーダー」以外で購入されたオプションのPCIボードおよび周辺装置がある場合にそれらの接続を行います。



LANおよびディスクを増設した場合は二重化設定を行います。詳しい手順については、「Step C-2 LANの二重化を設定する」(3-66ページ)および「Step C-6 ボリュームの作成」(3-73ページ)を参照してください。

Step C-6 ボリュームの作成

Express5800/ftサーバではすべてのボリュームにおいてミラーを作成する必要があります。システムパーティションが格納されるボリューム以外の新規に作成する場合には、4-4ページの「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成します。

ボリュームの作成およびミラーの方法については、Windowsのオンラインヘルプおよび「Step C-3 ディスクの二重化を設定する」(3-68ページ)を参照してください。



ボリュームの作成はシステムの運用が開始された後でも可能です。ボリュームを作成する場合には、「構築可能なディスク構成について」(4-4ページ)を参照し、ボリュームを作成します。

Step C-7 ESMPRO/ServerAgent向けネットワークの設定

ESMPRO/ServerAgentは、NEC Express5800/ftサーバを連続稼働させるために必要であり、本装置購入時にすでにインストールされております。また、再インストールの際には自動的にインストールされます。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはSNMPの設定が必要です。

<SNMPサービスの設定変更>

1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
3. サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。
「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

重要

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを入力します。
 - ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先のESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

重要

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - 「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、ESMPRO/ServerAgentをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

重要

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

7. ネットワークの設定を終了する。

重要

- OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。
- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。
- ボリュームの作成はシステムの運用が開始された後でも可能です。ボリュームを作成する場合には、「構築可能なディスク構成について」(4-4ページ)を参照し、ボリュームを作成します。

Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする

「起動監視機能の切り替え ～BIOS設定の変更～」(3-76ページ)で切り替えた「Boot Monitoring」の設定を有効にします。

Step A-2(3-23ページ)またはStep B-3(3-40ページ)の「起動監視機能の切り替え ～BIOS設定の変更～」を参照して「Enabled」に変更してください。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Advanced	
Monitoring Configuration	Item Specific Help
Option ROM Scan Monitoring: [Disabled] Option ROM Monitoring Time-out: [5] Boot Monitoring: [Enabled] Boot Monitoring Time-out Period: [8] POST Pause Monitoring: [Enabled] POST Pause Monitoring Time-out: [3]	Option ROM Scan Monitoring features
F1 Help ↑↓ Select Item +/- Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ► Sub-Menu F10 Save Changes & Exit	

Step C-9 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express5800/ftサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

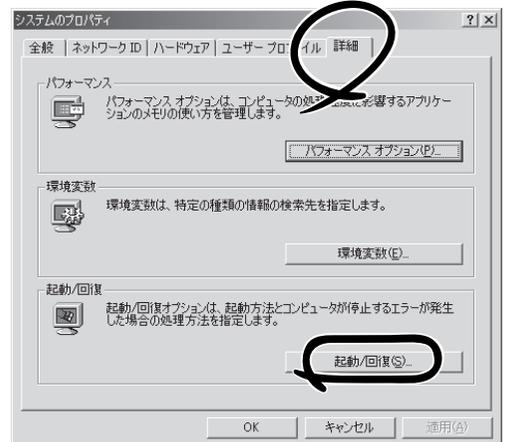


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

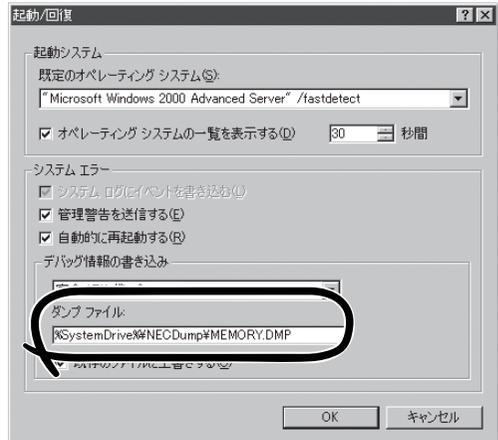
1. スタートメニューから[設定]を選び、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]をクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



本装置では、インストール時の既定値として以下のように設定されています。既定値への格納を推奨します。

%SystemDrive%¥NECDump¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上 (メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上) の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ情報 (メモリダンプ) の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。なお、搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は2048MBとなります。空き容量は [2048MB+12MB] を目安にしてください。

6. [パフォーマンスオプション] をクリックする。
7. [仮想メモリ] ダイアログボックスの [変更] をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を [推奨] 値以上に変更し、[設定] をクリックする。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの [初期サイズ] を [推奨] 値未満に設定すると正確なデバッグ情報 (メモリダンプ) を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて」(3-36ページ) を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にメモリダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

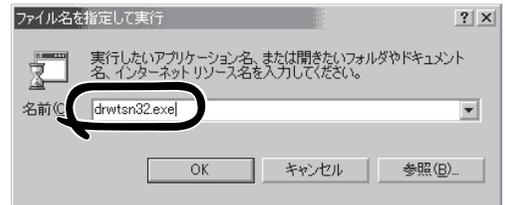
ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpress5800/ftサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows 2000ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

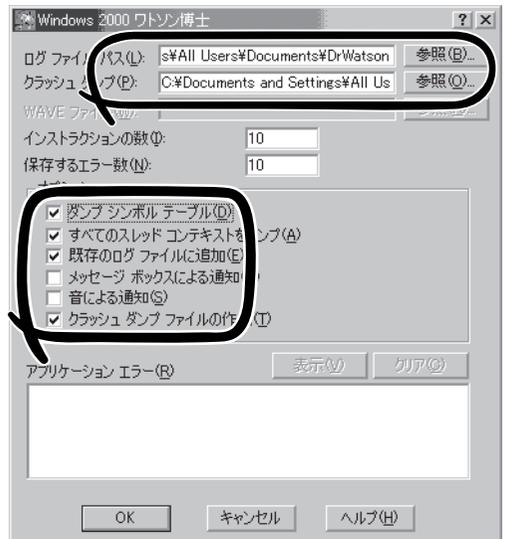


ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。
[アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにし、[次へ]をクリックする。
5. 「Windows 2000 Advanced Server」または「Service Pack3」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って要求対象が存在するパスを指定する。

重要

この際、サービスパックは圧縮形式(W2KSP4.EXE)でなく、W2KSP4.EXEが展開された形式(i386フォルダがある形)である必要があります。圧縮形式(W2KSP4.EXE)を展開し、そのパスを指定してください。ファイルの展開はコマンドラインオプションの /Xを使用してください(Service Pack 4のCD-ROMに収録されているSPDeploy.htmまたはWindows 2000 Service Pack 4のWebサイトを参照してください)。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。
8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

Step C-10 システム情報バックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。

次の手順に従ってバックアップを取ってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットし、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]-[オフライン保守ユーティリティ]を選択する。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

以上でセットアップは終了です。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、Express5800/ftサーバ監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpress5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

ESMPRO/ServerAgent

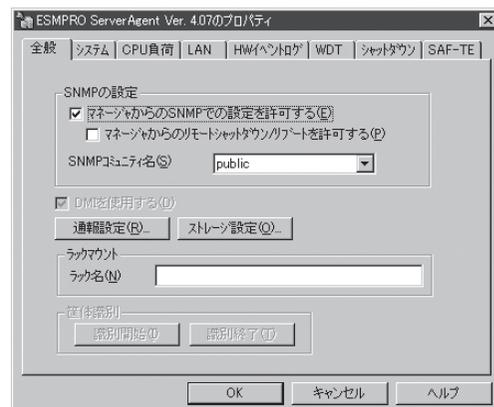
ESMPRO/ServerAgentは、「Step B-4 ftサーバセットアップ」で自動的にインストールされます(初めて電源をONにするときのハードディスクドライブにも出荷時にインストール済みです)。

[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。ftサーバセットアップの中でインストールしなかった場合は、6章を参照して個別にインストールしてください。

 **重要** Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

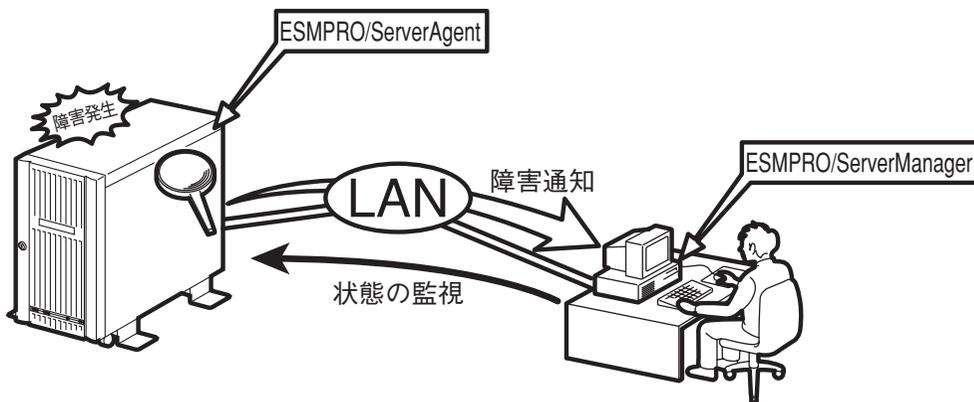
ESMPRO/ServerAgentの詳細な設定は[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリックして表示されるプロパティダイアログボックスで変更することができます。

設定項目に関する詳細は、[ヘルプ]をクリックすると表示されるオンラインヘルプを参照してください。



ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項については6章を参照してください。

MWA

Management Workstation Application (MWA) は、Express5800/ftサーバ内のRomPilot やBaseboard Management Controller (BMC) などのコントローラと通信し、管理PC上でExpress5800/ftサーバのBIOS設定を確認したり、管理PCにセットしたフロッピーディスクからExpress5800/ftサーバを起動したりすることができる管理用アプリケーションです。

管理PCに「MWA Manager」をインストールし、LAN、またはWAN、シリアルポートを介してExpress5800/ftサーバと通信することができます。

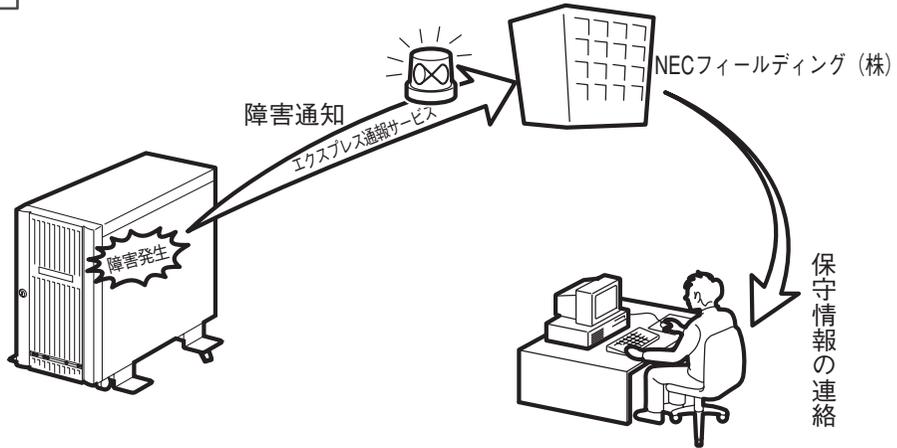
MWAのインストール方法や運用上の注意事項については6章を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。



ご利用には別途、保守契約が必要です。



エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、6章を参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

Global Array Manager

Global Array Manager (以下、「GAM」と呼ぶ)はN8190-82/82A Fibre Channelディスクアレイ装置(ST12000)のディスクアレイシステムの管理ユーティリティです。GAMの機能やインストールなどについては、N8190-82/82A Fibre Channelディスクアレイ装置(ST12000)に添付の説明書を参照してください。

ネットワーク上のPCのセットアップ

Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルを利用して通信をするWindows 2000、Windows NT 4.0、またはWindows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合には、すべてのコンピュータにおいて、以下の設定をしてください。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM内のWINNT\W2K\FTREG.EXEを任意のディレクトリにコピーする。
- コマンドプロンプトを起動し、上記ファイルをコピーしたディレクトリを入力して次のコマンドを入力する。

FTREG.EXE

この設定は、Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時にExpress5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータ間のコネクションが無通信状態となり、タイムアウトを起こす可能性を回避するものです。Express5800/ftサーバを起動直後、およびCPUモジュールの再組み込み時に発生する無通信時間は、搭載のメモリサイズに比例します。

メモリサイズ無通信時間

メモリサイズ	無通信時間
256MB	約 3.1秒
512MB	約 6.2秒
1GB	約12.3秒
2GB	約24.7秒
3GB	約36.3秒

この設定プログラムでは、Windowsの以下のレジストリを設定します。

● Windows NT/Windows 2000の場合

レジストリキー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters
値 :TcpMaxConnectRetransmissions
タイプ : REG_DWORD
設定値 : 5
値 :TcpMaxDataRetransmissions
タイプ : REG_DWORD
設定値 : 8
値 :TcpMaxConnectREsponseRetransmissions
タイプ : REG_DWORD
設定値 : 5

● Windows 95/98/Meの場合

レジストリキー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\VxD\MSTCP
値 :MaxConnectRetries
タイプ : String
設定値 : 5
値 :MaxDataRetries
タイプ : String
設定値 : 8

ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現している各種ソフトウェアの集合であるft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

バージョン確認には、専用のツールが用意されています。下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 管理者権限のあるユーザーでログインする。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア UPDATE」CD-ROMがある場合は、そのCD-ROMをセットしてください。

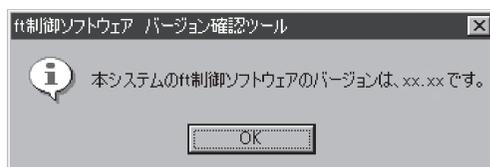
3. 格納されているバージョン確認ツールを実行する。

ツール名: ftVerChk.exe

格納場所: <CD-ROMドライブ>:\¥FTSVTOOL\¥VERSION

動作中のft制御ソフトウェアのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は完了です。



Windows Service Packの適用に関する注意

Express5800/ftサーバは、お客様の判断で出荷構成以外のService Packを適用しないでください。



出荷構成以外のService Packを適用したい場合は、PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、Express5800/ftサーバにService Packを適用してください。

Express5800/ftサーバは、Windows 2000 Service Pack4が適用された状態で出荷されています。Express5800/ftサーバにアプリケーションをインストールする際など、Service Pack4を再度、適用する場合には、以下の手順に従って適用します。

1. Windows 2000 Service Pack4 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. ¥W2KSP4.EXEを実行する。
3. 終了後、システムを再起動する。

Windows Update(セキュリティパッチ適用)について

Express5800/ftサーバにおいて、Windows Update機能を利用してWindowsモジュールの更新を行う場合には、各更新の内容を確認した上で実施してください。

Express5800/ftサーバにおけるセキュリティパッチ・QFEの評価状況は、ftサーバPP・サポートサービスのWebページにて公開されています。Express5800/ftサーバではOSに関する更新については、ftサーバPP・サポートサービスのWebページにて公開されているセキュリティパッチ・QFEのみの適用を推奨しています。

Express5800/ftサーバでのセキュリティパッチ・QFEの評価についてMicrosoft社が公開するセキュリティパッチについて、その重要度によりftサーバPP・サポートサービスにおいて、以下のように対応しています。

ー 重要パッチ(弊社にて重要で至急適用が必要と判断したもの)

パッチが発行され次第、評価を実施し、アナウンスを行います。
過去の例ではNimdaワームなど危険度が高いものは至急に評価を実施します。

ー セキュリティロールアップパッケージ(SRP)

SRPが発行されるのに伴い、評価を実施し、PP・サポートサービスのWebページにてアナウンスを行います。

ー その他のパッチ

WindowsOS標準機能に関するセキュリティパッチは、定期的にとまとめて評価を実施し、PP・サポートサービスのWebページにてアナウンスを行います。

PP・サポートサービスのWebページに掲載されていないOSに関する更新について、疑問点・不明点がある場合には、PP・サポートサービスにお問い合わせください。

